

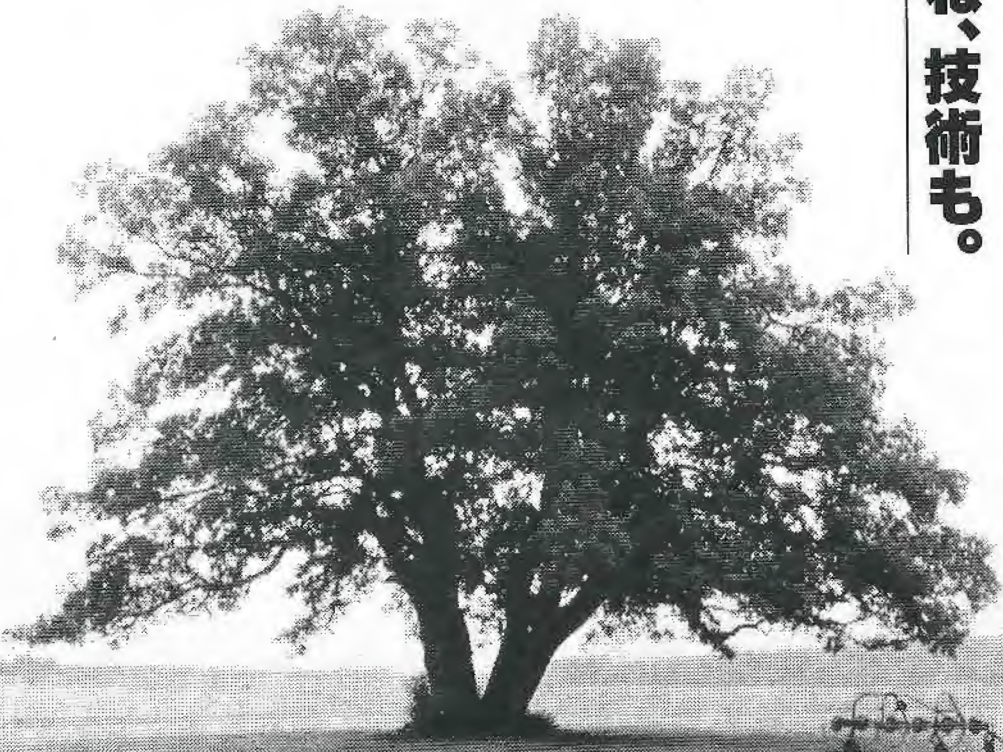
技術にこころをこめて75年



HITACHI

シンプルがいいね、技術も。

近年、"技術"はますます高度で複雑になってきました。専門知識を持った人や経験を積んだ人でなくては扱えないような機械もふえています。でも本来機械は、誰もが気軽に使えるものであるべきでしょう。これからの技術には単純明快なわかりやすさが必要なのです。いま日立はインターフェイスという言葉のもとに、人間と技術とのよりよい関係、誰もがかんたんに使いこなせる技術の実現をめざして研究・開発をすすめています。



技術との自由な対話

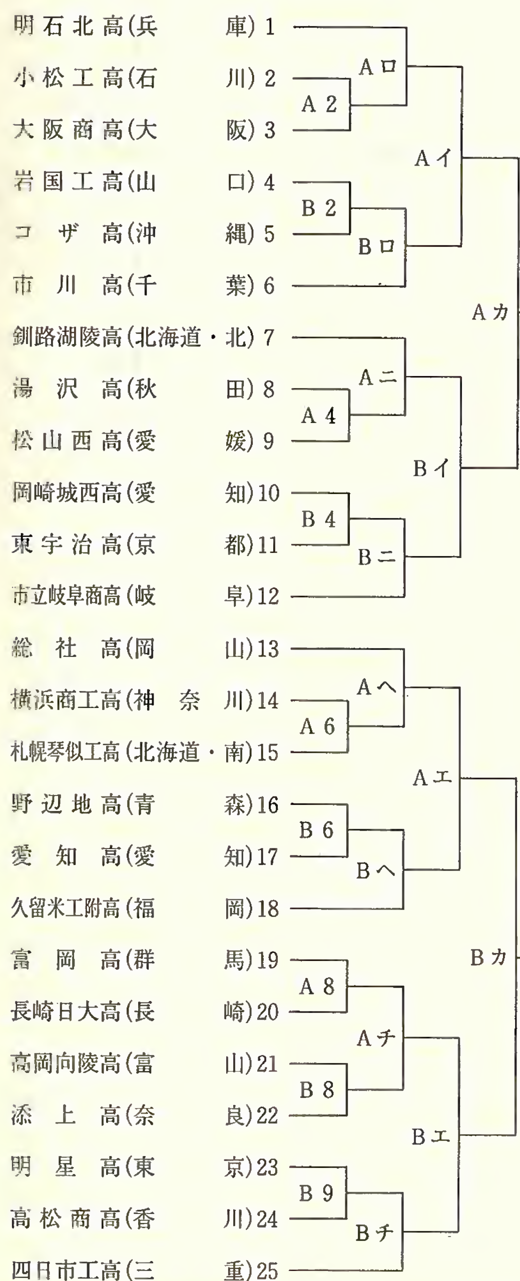
Interface

株式會社 日立製作所 宣伝部 〒101 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 TEL東京(03)258-1111(大代)

第9回全国高校選抜大会 組み合わせ

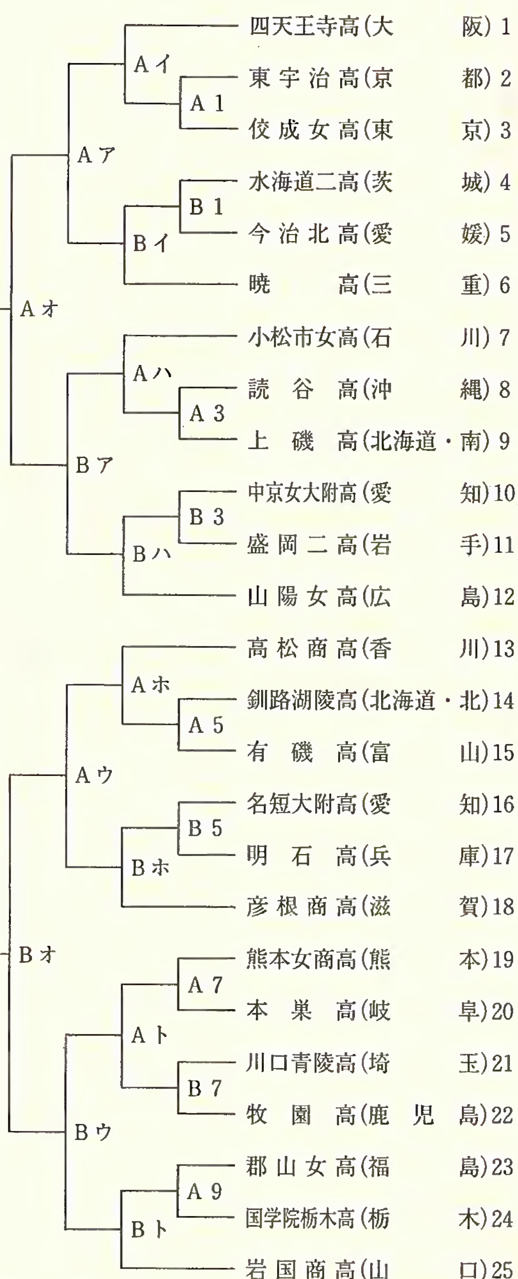
第９回全国高校選抜大会は、来たる３月24日から28日までの５日間、全国から予選を勝ち抜いた男女各25校の代表チームが参加して、愛知県名古屋市で熱戦を展開する。
栄冠目ざしてしのぎを削る代表校と組み合わせ表をここに紹介，各校の健闘を祈りたい。

〈男子の部〉



B　A

〈女子の部〉



第17回全日本実業団男子トーナメント大会

三景が昨年の屈辱を晴らし優勝

（2月9日～11日／宮城県仙台市）

▼1回戦

トヨタ車体（愛知）33（13―14・20―5）19 武田薬品光（山口）

○…前半からトヨタ車体の動きはスピードにあふれ、パスワークも確実で点差をつけていった。トヨタ車体の攻撃は長野の早いパスワークに全員がよく動き、一方的な内容になってしまった。武田薬品はトヨタのディフェンスに攻撃の決め手を欠き、無理なシュートを打ち相手の速攻を許してしまった。（今野）

得	〔車体〕		〔武田〕	得
0	宮田	GK	清水	0
0	村林	FP	長棟	4
13	長野		西野	1
3	藤長		杉山	0
0	萩原		末長	11
4	河村		笹野	1
9	松井		川本	0
1	中島		酒井	0
1	蓑田		小川	1
2	大垣		仁科	1
33	(5)	PT	(3)	19

（審・半田、菅野）

東京重機（東京）26（14―7・12―10）17 日本耐酸壜工業（岐阜）

得	〔重機〕		〔耐酸〕	得
0	吉田	GK	岩田	0
0	衣笠	FP	吉安	1
1	卯野		小林	4
0	北村		西脇	0
6	佐藤		森	0
4	河野		梅田	0
2	福地		河合	0
6	古屋敷		野村	2
4	鷹野		吉田	3
3	海老原		木村	7
0	千葉			
26	(2)	PT	(1)	17

（審・今野、伊藤）

○…東京重機が河野の速攻で先行、古屋敷のサイドシュートで加点するのに対し、日本耐酸壜工業は吉田のロング、木村のポストで得点、前半12―10と接戦となる。後半、日本耐酸壜工業は単調な攻撃となり、東京重機の速攻を許し点差がついてしまった。（田村）

北陸電力（福井）26（16―6・10―15）21 興亜石油（山口）

○…似かよったチームカラー同士の一戦だったが、相手のDFのミスをついて前半は興亜石油のリードで終了。互いに大事なところでのミスが目出ち、後半に入っても一進一退の攻防が続いたが、興亜にやや疲れが見え始め、15分には同点となひ、北陸・土本を中心とした速い攻めに屈した。（佐藤）

得	〔北陸〕		〔興亜〕	得
0	岩城	GK	松本克	0
0	原田	FP	藤田	11
0	下村		中本	0
0	小原		長野	0
0	近葉		松本達	2
0	稲木		高林	2
17	土木		松本治	3
0	加藤		中村	0
3	吉田		重田	3
3	稲崎		大山	0
2	三田			
1	川上			
26	(4)	PT	(5)	21

（審・増田、田村）

大阪ガス（大阪）35（20―11・15―6）17 コスモ石油（千葉）

○…前半コスモのロング、サイドシュートが入らず、大阪ガスの逆速攻で、15分には11―4と差がつく。後半、コスモも北畑のサイドシュートなどで反撃するが、その他のシュートが甘く、相手GKに阻まれ追加点がなかった。一方大阪ガスは、チャンスを確実ていねいにシュートし得点に結びつけた。（菅野）

得	〔大阪〕		〔コスモ〕	得
0	福田	GK	谷口	0
3	奥野	FP	福本	0
3	竹志		善岡	3
1	藤井		松田	0
2	竹内		北畑	4
2	藤田		高橋	0
2	水谷		川端	1
12	長田		八木	0
4	田坂		松井	1
6	中村		山本	7
			昆野	0
35	(4)	PT	(0)	17

（審・林、佐藤）

セントラル自動車（神奈川）41（22―2・19―5）7 日本鋼管福山（広島）

○…セントラルの攻撃はスピードにあふれ、ボール回しも早く、海老原、守谷、鈴木の外側からのゆさぶりにポスト、サイドがよく合わせ、多彩な攻撃を見せ得点を重ねた。後半になっても、セントラルの早い動きが衰えず、大差のゲームになってしまった。（今野）

得	〔セント〕		〔網管〕	得
0	吉田	GK	辺見	0
0	佐藤			
2	茂垣	FP	村田	2
4	谷中		岡崎	1
4	日吉		小松	0
4	尾形		篠田	2
8	海老原		金井	2
4	笠場		松村	0
2	宮浦		林	0
5	守谷			
5	鈴木			
3	藤野			
41	(2)	PT	(0)	7

（審・半田、菅野）

新日鉄名古屋（愛知）22（10―6・12―5）11 三和銀行（大阪）

○…前半開始30秒、三和銀行はポストシュートから先行し、幸先の良いスタートを切る。それに対して新日鉄は蟹江、戸沢、土屋のカットインシュートから得点し、ディフェンスをかため早い動きとパスワークから如点。後半も新日鉄は速攻を混え、着実に得点し、三和の攻めを早い詰めで封じて勝利する。（増田）

得	〔名古屋〕		〔三和〕	得
0	岩上	GK	菊池	0
0	浜田		廣嶋	0
5	平野	FP	後藤	2
3	土屋		大塚	0
1	清水		乾	1
2	蟹江		吉川	0
6	大島		田中	5
2	戸次		入江	0
1	渡辺		中村	0
0	明永		松永	2
0	伊藤		桑	1
2	阿久根		石森	0
22	(2)	PT	(0)	11

（審・今野、伊藤）

中村荷役大井（東京）36（17―9・19―6）15 日本碍子（愛知）

○…走力、パスワーク、シュート力すべてに上回る中村荷役大井の完勝であった。日本碍子もポスト、サイドで活路を見出そうとするが。GKの好守にあいなかなか得点に結びつけることが出来なかった。（佐藤）

得	〔大井〕		〔碍子〕	得
0	飯塚	GK	野本	0
0	高橋			
2	飯田	FP	本山	1
4	松本		伊藤	1
8	岡部		江口	4
4	栗山		竹内	0
1	辻		喜多	3
9	永沢		梅岡	2
3	池田		広田	4
5	茂木		磯山	0
			山守	0
			峯	0
36	(1)	PT	(0)	15

（審・増田、田村）

本田技研熊本（熊本）40（20―9・20―4）13 自衛隊勝田（茨城）

○…本田はロングシュート、速攻と多彩な攻撃で加点し、有利に試合を進める。一方自衛隊は本田の堅いディフェンスを破ることが出来なかったが、最後まで闘志あるプレーを見せてくれた。（半田）

得	〔本田〕		〔勝田〕	得
0	岩木	GK	佐々木	0
0	坂本			
3	斉所	FP	富永	0
1	中村		額賀	2
7	佐伯		高岡	3
8	長野一		大和田	1
1	岡崎		藤原	2
7	入江		関本	3
4	鯖江		長南	2
5	長野透			
2	荒田			
2	樋口			
40	(3)	PT	(1)	13

（審・林、佐藤）

日鉄建材（大阪）26（9―9・10―10・2―1・5―2）22 日本電装（愛知）

○…前半23分、日鉄建材に退場者が出た間に日本電装が追い上げ、前半は9―9の同点で終了。日鉄建材は後半もPT3本を落とす雑な試合運びで同点のまま延長戦に入る。日鉄建材は延長に入ってようやくペースをつかみ、相手を突き放す。（記入者不明）

得	〔日鉄〕		〔電装〕	得
0	蓑輪	GK	橋本	0
0	川上		伊藤	0
0	霜村	FP	杉村	6
3	杉本		榊間	1
8	山口		山田	0
6	中山		槙原	2
6	池辺		久本	5
1	上山		安江	0
1	外山		牧野	3
1	清原		菊池	0
0	古川		豊田	5
0	若本		王木	0
26	(1)	PT	(0)	22

（審・小友、谷藤）

日本発条（神奈川）23（11－8　12－8）16 三井石油化学（山口）

○…開始2分、日本発条・関のシュートでスタート、その後6分まで得点なし。しかし、ミドル、ロングで加点、4点差で前半を終了。後半、日本発条の順調な加点に比べ三井石化は攻めあぐみ、単発的なシュートもGKに阻まれてしまった。（武田）

	〔発条〕	得	〔山口〕	得
GK	愛甲	0	田村	0
GK	清水	0		
FP	石塚	0	村上	0
FP	井上貢	6	中岡	0
FP	及川	1	大村	3
FP	舛屋	4	中倉	1
FP	関	4	石川	2
FP	佐々木	1	作花	2
FP	藤野	0	青木	4
FP	井上誠	7	村井	4
FP	手島	0		
FP	中光	0		
PT	(3)	23	(0)	16

（審・加藤、中島）

三景 31（15－6　16－2）8 丸善石油松山

○…前半1分、三景・郡司がサイドから決め、その後多彩な攻撃で着々と得点を重ね、一方的に前半を終了。後半、丸善石油松山も懸命に反撃するが、実力差はどうにもならなかった。（加藤）

	〔三景〕	得	〔松山〕	得
GK	中村	1	塩田	0
GK	北川	0		
FP	田畑	3	岡部	0
FP	太田	0	小笠原	2
FP	近藤	6	木村	1
FP	高橋	2	伊藤	2
FP	福永	2	佐々木	1
FP	田村	5	北谷	2
FP	郡司	8	神野	0
FP	岡部	2		
FP	山田	1		
FP	大谷	1		
PT	(2)	31	(1)	8

（審・山辺、武田）

新日鉄大分 30（12－9　18－8）17 自衛隊久里浜（神奈川）

○…新日鉄は、前半岡村を中心に防御を固め、自衛隊の無理なシュートを速攻に結びつけ得点を重ねた。一方、自衛隊は黒木を中心によく攻めたが、単調な攻撃で連続して得点出来ず苦しい展開となった。後半に入っても、新日鉄は南の好リードでセット、速攻で得点を着実に伸ばした。（小友）

	〔大分〕	得	〔久里浜〕	得
GK	財満	0	下平	0
GK			本塚	0
FP	岡村	1	渡辺	2
FP	牧	0	梅田	0
FP	房前	4	洲鎌	0
FP	大杉	12	中根	0
FP	麻生	3	畑中	4
FP	安部	1	友利	1
FP	南	5	佐藤	0
FP	得丸	2	白坂	3
FP	吉田	2	黒木	7
FP			菅野	0
PT	(0)	30	(2)	17

（審・勝山、加藤）

豊田自動織機（愛知）25（12－11　13－6）17 三井石油化学（千葉）

○…豊田自織は、前半ミドルシュート、蟹江が右から回りこんでシュートを決めリードする。後半三井石化も速攻、セットで善戦するも、前半の差を詰めることが出来なかった。（記入者不明）

	〔自織〕	得	〔千葉〕	得
GK	中村	0	杉弘	0
FP	蟹江	5	田中	2
FP	古田	2	佐藤	0
FP	新田	1	森重	5
FP	大城	5	相田	2
FP	山内	7	中村	6
FP	平岩	1	三村	2
FP	兵藤	0	岡村	0
FP	前川	2	貫船	0
FP	諌山	2		
PT	(5)	25	(0)	17

（審・小友、谷藤）

神戸製鋼（兵庫）18（8－8　10－6）14 日本原子力研究所（茨城）

○…両方ともに決め手がないが速攻が出る神戸製鋼が4点差で前半終了。後半に入り速攻とペナルティーで着々と加点し、後半開始10分でダブルスコアにまでなった。しかし、日本原子力も徐々に反撃し追いすがるが、神戸製鋼GKの好守に阻まれた。（記入者不明）

	〔神戸〕	得	〔原子力〕	得
GK	中尾	0	佐藤	0
GK			広瀬	0
FP	江口	5	宮本	1
FP	渡辺	2	大友	1
FP	大谷	0	川上	2
FP	須藤	1	秋山	10
FP	藤谷	4	相沢	0
FP	河内	5	安達	0
FP	由利	1	砂押	0
FP			坪井	0
FP			萩原	0
FP			栗林	0
PT	(5)	18	(1)	14

（審・加藤、中島）

金沢市役所（石川）20（10－6　10－8）14 東北ムネカタ（福島）

○…前半開始後、金沢市役所・酒井のシュートなどで3分まで3点をリードしたが、ムネカタも4分、長谷川のカットインから反撃に移り一進一退。後半、お互いに同じようなミスをくり返し盛り上がらず、前半リードの流れで金沢市役所が逃げ切った。（加藤）

	〔金沢〕	得	〔ムネ〕	得
GK	竹中	0	佐藤	0
GK	藤井	0		
FP	池村	1	半沢	0
FP	金森	1	高野	1
FP	中納	2	長谷川	2
FP	橋本	3	小野	3
FP	酒井	2	土屋	2
FP	中村	1	阿部	0
FP	西田	9	桜井	3
FP	北野	1	林	1
FP	瀬藤	0	渡辺	2
FP	長村	0		
PT	(1)	20	(0)	14

（審・山辺、武田）

中村荷役（東京）29（17－10　12－13）23 豊田合成（愛知）

○…前半、豊田合成は上條を中心にコンビプレーがよく決まり、得点を重ねた。中村はリズムが悪く、個人技での得点に終始し、豊田合成のリードで前半を終了。後半に入っても、中村は攻撃のリズムがつかめず苦戦したが、中盤から疲れのみえた豊田合成に走り勝ち、逆転勝ちした。（小友）

	〔中村〕	得	〔合成〕	得
GK	石井	0	則武	0
GK	末次	0	梅村	0
FP	坂口	8	太田	5
FP	福士	10	花井	4
FP	大木	3	渡辺	1
FP	三尾	2	宇佐美	0
FP	塚田	2	須原	0
FP	長原	0	小島	0
FP	窪田	0	横山	0
FP	吉田	0	牧田	3
FP	小野	2	小林	6
FP	酒井	2	上條	4
PT	(2)	29	(4)	23

（審・勝山、加藤）

▼2回戦

トヨタ車体 34（17－9　17－14）23 東京重機

○…前半、トヨタ車体は長野、松井を中心として速攻、セットともに着実に加点し、ゲームを有利に運んだ。一方東京重機は、20分以降佐藤の3点連取を契機に善戦し、17－14と食い下がった。後半、立ち上がりに東京重機・卯野のスタンディングシュートが決まり、その後2点差と詰め寄ったが、トヨタ車体は連続してペナルティースローを得て引き離した。（佐藤）

	〔車体〕	得	〔重機〕	得
GK	宮田	0	吉田	0
GK	村林	0		
FP	長野	12	衣笠	0
FP	藤長	2	卯野	2
FP	萩原	4	北村	1
FP	河村	2	佐藤	4
FP	松井	11	河野	1
FP	中島	1	福地	0
FP	蓑田	0	古屋敷	3
FP	大垣	2	鷹野	6
FP			海老原	4
FP			千葉	2
PT	(1)	34	(0)	23

（審・山辺、武田）

大阪ガス 46 （19 27―9 7） 16 北陸電力

○…大阪ガスの一方的勝利であった。試合開始後40秒で大阪ガス・田坂の右45度シュートが決まり、以後、早いボール回し、速攻と多彩な攻撃を見せた。一方北陸電力は、パス、シュートにもスピードがなく、力の差が見られた。（小林）

	〔北陸〕	得
GK	岩城	0
	原田	0
FP	下村	0
	小原	1
	近藤	0
	稲木	0
	土木	4
	加藤	0
	吉田	4
	稲崎	2
	三田	0
	川上	5
PT	(2)	16

（審・加藤、中島）

	〔大阪〕	得
GK	福田	0
FP	奥野	3
	竹志	2
	藤井	0
	竹内	3
	藤田	5
	水谷	8
	長田	13
	田坂	6
	中村	6
PT	(7)	46

セントラル自動車 37 （17 20―10 7） 17 新日鉄名古屋

○…前半から、セントラル自動車は若さにものをいわせよく走り、左、右両サイドからのシュートがよく決まった。新日鉄もよく対抗したが、攻めが中央に寄りすぎ、なかなか得点に結びつかなかった。（古川）

	〔名古屋〕	得
GK	岩上	0
	浜田	0
FP	平野	0
	土野	1
	清水	1
	蟹江	3
	大島	3
	戸次	6
	渡辺	3
	明永	0
	伊藤	0
	阿久根	0
PT	(2)	17

（審・小友、谷藤）

	〔セント〕	得
GK	吉田	0
	佐藤	0
FP	茂垣	4
	谷中	10
	日吉	1
	海老原	5
	笠場	8
	宮浦	2
	守谷	4
	鈴木	1
	藤野	1
	瀬戸	1
PT	(7)	37

本田技研熊本 29 （13 16―20 8） 28 中村荷役大井

○…前半、中村荷役大井のシュートミス、パスミスと本田技研熊本の早いつぶしからの速攻が目立った。本田の長野、佐伯のロングシュートがよく入り、10分過ぎから得点差が開いた。後半になると中村荷役がディフェンスからの速攻で得点し1点差まで追いついたが、最後まで同点に追いつくことが出来なかった。（伊藤）

	〔大井〕	得
GK	飯塚	0
	高橋	0
FP	飯田	2
	松本	6
	岡部	4
	栗山	0
	辻	5
	永沢	5
	池田	0
	茂木	6
PT	(0)	28

（審・山辺、武田）

	〔本田〕	得
GK	岩本	0
	坂本	0
FP	斉所	6
	中村	3
	佐伯	7
	長野一	3
	岡崎	3
	入江	0
	鯖江	0
	長野透	7
	荒田	0
	樋口	0
PT	(3)	29

日鉄建材 34 （17 17―7 8） 15 日本発条

○…前半、攻守に勝る日鉄建材が着々と得点を重ね点差を広げた。特に、日鉄の山口のシュート、GKの蓑輪の好プレーが目立った。後半に入って、日本発条も関のシュートなどで反撃するも、日鉄は終始攻撃の手をゆるめず、中山、上山などのシュートで加点し、日本発条を圧倒した。（記入者不明）

	〔発条〕	得
GK	愛甲	0
	清水	0
FP	石塚	0
	川上	3
	及川	0
	舛屋	0
	関	6
	佐々木	2
	藤野	0
	井上	0
	手島	0
	中光	4
PT	(1)	15

（審・林、佐藤）

	〔日鉄〕	得
GK	蓑輪	0
	川上	0
FP	霜村	0
	杉本	5
	山口	8
	中山	9
	池辺	2
	上山	5
	外山	1
	清原	0
	古川	0
	若本	3
PT	(1)	34

三景 35 （19 16―10 11） 21 新日鉄大分

○…開始直後、新日鉄がペナルティーで先行したが、三景もすぐに同点に追いつき、10分以降は、速攻、ポスト、サイド、ミドルと攻めまくった。（大谷）

	〔大分〕	得
GK	財満	0
FP	岡村	4
	牧	0
	房前	1
	大杉	6
	麻生	0
	安部	0
	南	5
	得丸	2
	吉田	3
PT	(1)	21

（審・増田、田村）

	〔三景〕	得
GK	中村	0
	北川	0
FP	田畑	12
	太田	5
	近藤	6
	高橋	0
	峰尾	0
	福永	1
	田村	5
	郡司	3
	岡部	1
	山田	2
PT	(0)	35

豊田自動織機 27 （16 11―6 1） 7 神戸製鋼

○…前半、豊田は速攻、セット攻撃とパワフルな得点を着実に重ね、一方的な試合展開となる。逆に神戸製鋼は速攻、ロングシュートはことごとく相手GKに阻止され、後半になっても豊田は速攻で得点を重ね大差で終了した。（記入者不明）

	〔神戸〕	得
GK	中尾	0
FP	江口	2
	渡辺	1
	大谷	0
	須藤	1
	藤谷	0
	河内	2
	由利	1
PT	(0)	7

（審・半田、菅野）

	〔自織〕	得
GK	中村	0
FP	蟹江	5
	古田	0
	諫山	5
	兵藤	1
	平岩	1
	大城	1
	新田	3
	前川	1
	山内	10
PT	(4)	27

中村荷役 35 （20 15―16 9） 25 金所市役所

○…前半、中村荷役は坂口、小野の速攻、サイドシュートなどで着実に得点し、金所市役所も終盤セットプレーで3点差まで追い上げたが速攻を許し、引き離された。後半も差を詰めることが出来ず、走りの差が出た。（記入者不明）

	〔金沢〕	得
GK	竹中	0
	藤井	0
FP	池村	5
	金森	0
	中納	6
	橋本	5
	中村	3
	西田	5
	北野	1
	倉	0
	瀬藤	0
	長村	0
PT	(3)	25

（審・林、佐藤）

	〔中村〕	得
GK	石井	0
	末次	0
FP	坂口	3
	福士	8
	大木	1
	三尾	3
	塚田	2
	長原	2
	窪田	1
	吉田	0
	小野	9
	酒井	6
PT	(2)	35

▼3回戦

トヨタ車体 27 （8 19―16 7） 23 大阪ガス

○…前半、ミスの出る大阪ガスに対し長野を中心とする若いトヨタは、大阪ガスのDFをかき回し、確実に得点を重ねる。後半になると速攻、フェイントと細かい動きを得意とする大阪ガスが4点連取するが、前半の失点が響き追いつくことが出来なかった。（森）

	〔大阪〕	得
GK	福田	0
FP	奥野	2
	竹志	0
	藤井	0
	藤田	3
	水谷	6
	長田	3
	田坂	2
	中村	7
PT	(2)	23

（審・勝山、加藤）

	〔車体〕	得
GK	宮田	0
	村林	0
FP	長野	11
	藤長	2
	萩原	1
	河村	5
	松井	1
	中島	7
	蓑田	0
	大垣	0
PT	(2)	27

本田技研熊本 31 （3 4 13 11―2 1 12 12） 27 セントラル自動車

○…前半、両チームともスピードのある動きとパスワークによって互角に展開した。特に中盤セントラルはPTやノーマーク速攻を連続しておとしたものの、本田・荒田の退場をきっかけに2点連取して逆転に成功、1点リードして折り返した。後半開始早々、セントラルは本田の単発的なシュートをブロックし、連続して速攻を決め、ゲームを決定づけたかに見えたが、粘る本田は13分以降長野を中心に反撃、延長戦に入る。延長の前半、本田は全員攻撃によって田上、長野、岡崎、長野と加点し勝利をものにした。（佐藤）

得	〔本田〕		〔セント〕	得
0	岩本	GK	吉田	0
0	坂本		佐藤	0
4	田上	FP	茂垣	0
0	斉所		谷中	8
1	中村		日吉	0
6	佐伯		尾形	0
5	長野一		海老原	3
2	岡崎		笠場	7
0	鯖江		宮浦	3
13	長野透		守谷	6
0	荒田		藤野	0
0	樋口		瀬戸	0
31	(2)	PT	(0)	27

（審・谷藤　小友）

三景 24〔11－7　13－12〕19 日鉄建材

○…前半、両チールともロングシュートで勝負し、接戦になるが三景がリード。後半、日鉄建材はよく走り、チャンスを作るが、どうしても大事な1点がとれず、三景の多彩な攻撃にDFがついていけなかった。（記入者不明）

得	〔三景〕		〔日鉄〕	得
0	中村	GK	嚢輪	0
0	北川		川上	0
8	田畑	FP	霜村	0
1	太田		杉本	4
4	近藤		山口	8
1	高橋		中山	3
7	福永		池辺	2
3	田村		上山	2
7	郡司		外山	0
0	岡部		清原	0
0	白倉		若本	0
0	山田			
24	(1)	PT	(4)	19

（審・今野　伊藤）

中村荷役 28〔16－13　12－12〕25 豊田自動織機

○…豊田自織の先取点で始まるが、中村荷役も4分10秒にペナルティーを決め、速攻、ジャンプやサイド攻撃とお互いに譲らず、12－12で前半を折り返す。後半も20分過ぎまでシーソーゲームであったが、21分38秒、中村・福士の右45度よりカットイン、得点を決めその後塚田のポスト攻撃で2点差と突き放す。（林）

得	〔中村〕		〔自織〕	得
0	石井	GK	中村	0
0	末次			
2	坂口	FP	蟹江	4
15	福士		古田	1
3	大木		諫山	1
3	三尾		兵藤	0
2	塚田		平岩	0
0	長原		大城	7
0	窪田		新田	2
0	吉田		前川	0
2	小野		山内	7
1	酒井			
28	(1)	PT	(1)	25

（審・半田　菅野）

▼準決勝

トヨタ車体 29〔16－8　13－12〕20 本田技研熊本

○…前半、トヨタ車体はセットから得点入らず苦しいスタートを切ったが、10分過ぎからディフェンスに粘りが出て、GKからの球出しが良くなり、速攻も決まり出した。これに対して本田は長野のロングシュートが決まり出し、一進一退の攻防がつづいた。後半立ち上がり、トヨタの松井、藤長のポストシュートから相手反則によるPT、GKの好守による速攻への結びつきが目立ち、連続得点を重ねてリードを広げた。（伊藤）

得	〔車体〕		〔本田〕	得
0	宮田	GK	岩本	0
0	村林		坂本	0
8	長野	FP	田上	0
2	藤長		斉所	2
0	萩原		中村	1
2	河村		佐伯	3
13	松井		長野一	11
4	中島		岡崎	0
0	蓑田		青江	0
0	大垣		長野透	3
			荒田	0
			樋口	0
29	(5)	PT	(5)	20

（審・増田　田村）

三景 29〔12－11　17－11〕22 中村荷役

○…開始後15分まで三景のパスミスなどで中村が6－1とリードしたが、17分頃から三景・田畑の強烈なシュートが決まり、その後三景ペース。後半に入ってからも、やや中村のペースもあったが三景が郡司、田畑の大活躍で逃げ切った。（小林）

得	〔三景〕		〔中村〕	得
0	中村	GK	石井	0
0	北川		末次	0
8	田畑	FP	坂口	3
1	太田		福士	8
5	近藤		大木	0
0	高橋		三尾	1
0	福永		塚田	1
2	田村		長原	2
13	郡司		窪田	0
0	岡部		吉田	0
0	山田		小野	3
0	大谷		酒井	4
29	(3)	PT	(2)	22

（審・勝山　加藤）

▼3位決定戦

本田技研熊本 28〔13－16　15－11〕27 中村荷役

○…前半、中村・坂口のシュートで先行するが、その後得点がつづかず、本田が着実な攻撃で15－11で前半を折り返した。後半になると中村のDFが良くなり、連続3得点など速攻が決まり出し、後半開始10分で同点に追いついた。その後一進一退の攻防がつづいたが、本田が長野の活躍で再び3点差をつけ、中村の追撃を押さえて1点差で逃げ切った。（岩槻）

得	〔本田〕		〔中村〕	得
0	岩本	GK	石井	0
0	坂本		末次	0
2	斉所	FP	坂口	2
2	中村		福士	2
2	佐伯		大木	2
9	長野一		三尾	9
0	岡崎		塚田	0
0	入江		長原	0
0	鯖江		窪田	0
13	長野透		吉田	13
0	荒田		小野	0
0	樋口		酒井	0
28	(3)	PT	(3)	28

（審・小友　谷藤）

▼決勝

三景 24〔12－6　12－11〕17 トヨタ車体

○…前半10分まで8－2と三景がパワーを生かし一方的にリードしたが、トヨタ・長野の左45度からのミドルシュートが決まってからリズムをつかみ、20分には8－7と1点差に詰め寄った。その後互いに点を取り合い、前半を1点差で終了。後半に入って三景は、速攻、ポスト、ロングと点を重ね、差を広げていった。（記入者不明）

得	〔三景〕		〔車体〕	得
0	中村	GK	宮田	0
0	北川		村林	0
7	田畑	FP	長野	7
3	太田		藤長	1
5	近藤		萩原	3
0	高橋		河村	2
0	峰尾		松井	2
0	福永		中島	2
1	田村		蓑田	0
7	郡司		大垣	0
0	岡部			
1	山田			
24	(3)	PT	(0)	17

（審・半田　菅野）

多くのものを残してくれた

昌文女子高校招待 日韓高校交歓交流

韓国の昌文女子高校を招待しての日韓高校交歓交流試合の結果については前号でお伝えしましたが、その昌文女子高校を招待した藤村女子高校の原監督、そして生徒2人から交歓交流の経験について感想文を寄せていただきましたのでここにご紹介致します。

原 信雄
（藤村女子高ハンドボール部監督）

昨年の夏、東京女子体育大学助教授高野亮氏より、「韓国の高校女子チームが、東京のチームと交流をしたいとの話があるが、藤村はどうか？」と相談をもちかけられた。私はその場でフンフンと聞くだけであった。10月の半ば「25日からソウルで世界女子ジュニア選手権大会がある。行って来るが返事を聞かれると思う。原さん決断してよ」といわれた。

藤村のハンドボール部の歴史はまだ新しく、創部して10年余り、校内のクラブの中でも伝統、成績の順では下の方である。我が校が海外のチームを招待するのは初めての事で、言葉、宿舎、試合、予算の面で問題が多々あると思いながら悩んだ。校長、副校長に相談したら「思い切ってやってみたら」と励まされ実施する事に決定した。正式に来るように決まったのは11月初めであった。

韓国領事館で招請状の手続きから始まって、日程作成、レセプション、試合会場、招待チーム、記念品、そして予算作成とあわただしい毎日が始まった。

到着予定直前になって連絡のあった便は観光バス会社の調査ではないという。――国際電話で確認出発時刻と到着時刻の違い（言葉の違いからか）と判る。到着ロビーで待つ事1時間、ランプも消え不安に思っているところ、やっと出て来た選手団、思わず胸をなでおろす。

12月22日、成田に無事到着した役員5名、選手14名計19名。実に礼儀正しく、あどけない、可愛らしい選手たち。

歓迎レセプションでお互いのチームから二曲づつ歌を披露。ハンドボール部の父母会手作りの料理を喜こんで食べてくれた。

23日、藤村の体育館で親善試合。試合前のセレモニーで両国国歌演奏、国家掲揚、校長歓迎のことば、団長のあいさつ。花束贈呈（コーチの杉山努氏の令嬢珠美ちゃん〈3歳〉の着物姿の可愛らしさにひときわ高い拍手わく）、役員選手紹介。

いよいよ試合が始まった。あどけない、可愛らしく見えていた彼女たちの素晴らしいプレーに目を見はるばかりであった。2試合目の3年生チームは、負けたもののよく健闘したと思う。

24日、25日の両日東京女子体育大学の体育館で日韓交流試合。名短付、山梨選抜、昭和学院、佼成女子が参加してくれ全部で6チーム総当りリーグ戦を行なった。

26日、東京見物。8時30分吉祥寺を出て、明治神宮、国立競技場、迎賓会、東宮御所、国会議事堂を経て皇居で昼食、元日劇前のセイコーの大時計、正午の時を告げるメロディーと共に小さな人形が演奏する姿にバスの中は拍手喝采。銀座、秋葉原を経て新宿住友三角ビル25階で東京を展望。ヨドバシカメラ、ハンドボールセブンで買物。レジタル時計、ウォークマン、カーラーをよく買っていた。マツヤニを大量に買って行ったのには驚いた。

27日午前、そして出発前の28日午前それぞれ3時間、ハンドボールの練習指導を受ける。一人一人の生徒にボールの持ち方からシュート、ジャンプの姿勢、フェイントと細かく、しかもていねいに教えてもらい感謝。

27日夜は『さよならパーティー』。韓国選手団19、藤村部員83、父母30、PTA関係者20、それに校長はじめ職員30、総勢180人が集まった。部員の各家庭より持ち寄った家庭料理、果物（韓国チームは特にバナナを好んで食べていた）、飲み物がところ狭しと並んだ各テーブルで、韓国選手を囲んで談笑はいつまでもつきなかった。各チームよりそれぞれ数曲づつ歌を披露。藤村のアリラン、サランへ、韓国のギンギラギンはひときわ拍手がわいた。

韓国の民族衣装〝チョゴリ〟をまとった選手たちが、ホームステイで世話になった（2泊）家族を前に涙の別れのあいさつ。日本協会、佐野和夫氏の『星影のワルツ』にすすり泣きの声が場内のあちこちから聞こえる。韓国チーム退場の折、校長が『蛍の光』をピアノで弾く。手拍子がいつまでも鳴り響いていた。

試合結果は前号紹介の如く完敗した。韓国高校女子チームについて感じた事を記しておく。

一、一人一人がボールを握っている。（松ヤニ使用）
一、従ってボール操作が実にうまい。フックパス、ラテラルパス、オーバーハンドバックパス等自由に使いこなす。
一、バネが強い。下半身がしっかりしている。（中には小学4年生の頃からハンドボールを始めている）
一、ナショナルチームの監督の指導方針、考え方が末端にまで徹底しているとの事である。
一、国をあげてスポーツに熱を入れているとの事。（ソウル・オリンピックを前にして）

素晴らしい1週間であった。24日夜東女体大食堂のクリスマスパーティ。各チームの出し物に爆笑した。28日成田空港出発ロビー、選手たちが抱き合って別れを惜しみ泣いていた。ハンドボールを通して、日韓の若者の交流は立派に果たせたものと自負している。

関係者の皆様ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。手弁当で来てくれました審判の先生方、交流試合に参加してくれました監督の先生方、本当にありがとうございました。

坂口 有里
（藤村女子高2・主将）

今たくさんの思い出を残して日韓交流親善試合が終わりました。振り返ってみると、とても勉強になる1週間でした。

日本のハンドボールと、韓国のハンドボールを比べてみて、根本的には同じものを求めているようですが、その国の習慣の違いやそのチームの個性的なものもあって、

私たちとはだいぶ異った練習方法もしていました。

私たちのチームは、ウォーミングアップを、念入りにやりますが、韓国のチームは、自分たちが本当に体を動かすのに必要なことだけを、自主的に能率よく、短時間でしてしまいます。

また、ボール操作もだいぶ違います。韓国のチームは、マツヤニを使用してパスやシュートをします。バックパスも日本の高校女子の場合は、ボールをにぎってもてないということで、なかなか出来ませんが、どんどん使ってきます。

シュートも肩の上から腕を大きく回します。つまり打点が高いわけです。どんなに手を上げてディフェンスをしても、その上からスピードボールで、シュートを打ってくるのです。

日本の私たちの場合、体育館がよごれるということで、マツヤニを使用出来る体育館は、ごくわずかですが、韓国のチームは練習の時から使っているそうです。それも、もちろん、ハンドボール専用の体育館があるからなのだそうです。

私はキーパーなのですが、シュートのことで強く感じたのは、打ってからとりに行くのでは、絶対に遅くれてしまってとれないということです。自分である程度シュートフォームや、シューターの位置をみて、先に位置をとらないと、とてもとれないということです。

キーピングの仕方は、私たちとほぼ同じですが、ちょっとした足の運びや、手の使い方が違いました。

また、2日間、私の家にもホームスティに来て、日本の生活をしてもらったのですが、部屋のたたみは韓国にもあるそうです。日本の食事は全体的に甘口でちょっともの足りなかったかもしれません。

食事中の会話で、お互いの将来のことを話し合いました。私の家に来ていた2人は、私と同じポジションのキーパーで、1人は、オリンピック候補軍Bチームの薛永子選手と、1人は、チームのキャプテンの朴喜卿選手で、2人とも熱心にハンドボールをやっているのだなと思いました。その2人がいうことには、「自分の名前を他の国の人々に広めて知ってもらいそれと同時に韓国という国を有名にしたい」というのです。

私たちは、日本のためにハンドボールをしようなんて思ったことも考えたこともなかったので、とても自分が恥かしくなりました。

2年後にはソウル・オリンピックが開催されるということで、ハンドボールにもかなり力が入っているようです。私たち高校生も日本のハンドボールとまではいきませんが、韓国チームのよい技術面や精神面を見習っていきたいと思います。

このような日韓交流試合は、プレーだけでなく、他の国との交流という意味でもとてもいい勉強になりました。お世話して頂いた先生方、いろいろありがとうございました。

竹野美夕希（藤村女子高2年・副主将）

韓国昌文女子高等学校ハンドボールチームは、日本へ国家の代表として来ている自負を持ち、また自分自身にとても自信を持っているチームでした。

韓国の選手が日本へ来て、一緒に生活してみて、一番困ったのが日常生活で絶対に必要とする言葉でした。初めて会った時は、韓国の人が何を私たちに言いたいのか全く理解する事が出来なかったのです。

それでも2日、3日と過ごしていくうちに、心が通じたのか、片言の英語やジェスチャーで話しが出来るようになりました。言葉が通じない相手の人に、私のいいたい事が通じるということは、すごくうれしいことでした。

昌文女子高校ハンドボールチームと藤村女子高校ハンドボールチームを比べてみると、フットワークから違い、ハンドボールに対する意気込みも全然違うように思えました。

あのパワーあふれるシュートや壁のように厚いディフェンス、素速いフェイントには、すべてが驚くことばかりでした。

いざ試合をしてみると、速攻だけを見ても、私たちにはないスピード、体力をもっているのです。

そして、韓国の選手は、ボールも自由自在に操作出来るのです。

ボールにスピードがあるのは、こんな理由からでした。まずボールは、親指と小指でもてるようにして、人差し指、中指、薬指この3本は、方向を決める。中の3本の指でスナップをつけ、手首でもスナップをつけ、腕のスウィング、腰の入れ方によって、直球のボールを投げることが出来るのです。

私は、スピードのあるボールを投げられるのは、力があればいいのだと思っていましたが、それはとんだ間違いでした。

韓国のチームの中に世界ジュニア選手がいたのです。この選手は世界で銀メダル賞をもらった石皎熹選手で、とても素晴らしいフィールドプレイヤーでした。

私たち、藤村女子高校ハンドボールチーム部員は、このような、素晴らしい選手のいる昌文女子高校と、交歓交流試合が出来た事を、とてもうれしく思っています。そして韓国の人たちに教えてもらったプレーをむだにしないように、もう一度初心にかえった気持ちで、今までとは違う藤村のチームを作り上げて行きたいと思っています。

特別寄稿

最近の西ドイツ学生事情について思う
――ヨーロッパ遠征より――

京都府ハンドボール協会／理事長　小西 博喜

私は過去一九八二年から八五年にかけて、4回にわたって関西学生ハンドボール選抜チームに同行（西ドイツ・オランダ）。また、一九八三年にはロサンゼルス・オリンピック全日本女子ナショナルチーム強化の目的で、Elegant Kupa（ハンガリー）技術研修に参加する機会を得た。とくに一九八二年の第10回世界男子ハンドボール選手権大会（ワールドカップ）が西ドイツのドルトムントで開催された際の貴重な研修成果は記憶に新しい。とりわけ、関西学生ハンドボール界が技術の高度化と国際化を目指すこの企画が、現在まで数多くの次代を担う若手選手の育成・強化という目標を達成しつつあることを考えれば、遠征の意義は大きい。これはまた、近年、世界のスポーツ界における技術開発の競争課題となっていることも確かである。

ところで、この4回の遠征を通じ、ハンブルク大学教授ハインツ・ペルレベルグ博士（体育学）と親しくなり、とくに昨年は博士宅に招待され、ドイツの学生事情について伺う機会を得たことは意義深かった。

まず「質実剛健」「誠実さ」といったようなドイツの伝統的な気質が近年、学生たちから次第に失われつつある傾向についてたずねたところ、同博士は「学生の気質が徐々に変りつつあることは如何ともしがたい。それは世界的な風潮であり、われわれの力では学生気質の変容に歯止めはかけられない。また、一方ではそれは世界の情勢の変化に伴った価値観の多様化が進みつつあることを裏づけている」と前置きしながら、学生気質の変容の理由として考えられることとして次の諸点をあげられた。

①以前の大学は、少数精鋭主義の方針であり、そのため学生たちは数多くの特典（恩恵・プライド）を受けていた。ところが、現在では大学志向の人間が激増し、大学における本来の目的意識の希薄な人たちまでが入学するようになり、学生の質的な低下につながってきた。

（年代別の学生数の概略）

（年代）	（学生数）
一九一九年（ハンブルグ大学設立当時）	約一七〇〇名
一九五〇年	約六〇〇〇名
一九六三年	約一五八〇〇名
一九七三年	約二四八〇〇名
一九八三年	約三七九〇〇名

②一九六八年に学生運動が起こり、従来の大学制度に対する強い反発が起こった。

③第二次大戦の際、ナチが犯した残虐行為に代表される過去のいたましい歴史的事実の反省に立って、若者がドイツ文化やドイツ人気質などに対して冷酷な反応を示している事実―などである。

次にドイツ大学の文化系学科の実態についてたずねてみたところ、文化系の学生が今とくに関心を持


西ドイツにおける技術講習会



チビッ子ハンドボール教室の子どもたち

っていることについて、同博士は「社会、環境問題だ」といい、とくに「第三世界」の発展途上国を助成する運動が活発化している点をあげられた。また、環境問題についても、平和運動が盛んで、昨年10月の「平和の日」には、アメリカ核兵器のドイツへの持ち込み反対運動が起こり、若者たちが何百キロもデモ行進をしたことなどを指摘された。

さらに、それら文化系学生が何を求めているかについては、同博士は「一般的には理想を求めていることは確か。しかし、ひとつの悲しい現象をいえば、フンボルト時代には、学生自身の理想があったが、一九六八年に起きた学生運動後は、若い教師たちの考え方やタイプが一転してしまった。つまり、現実的なものを追い求め過ぎて高度な理想像が欠如してしまった。さびしい現象ではあるが、世界的な動向や状況が移り変わってきているのでその事態については何ともいえない」といわれた。

最後に、「先に述べた過去のいまわしい歴史的事実に対し、批判をしながらも、かつての現実を再び子供たちに経験させまいと考えている親たちは、子供たちのほしがるままに物を与え過ぎた。そうした家庭教育のヒズミがいい意味のハングリー精神の欠如となって、子供たちの将来への成長過程に少なからず影響を及ぼしていることもまた事実だ」と付け加えられた。「物」は足りても「心」を失いつつある現代の側面をみる時、まるで日本の現状をそのまま指摘されているような気がした。

ある新聞の特派員記事の中で、「近ごろのドイツ高校生は、大学に進学する資格などない」という記事をみた。これは西ドイツ高校教師連盟が西ドイツ国内一三〇〇人を対象にしたアンケート調査の報告である。さらに、連盟のジダーマイア会長は、「一九六〇年のころは若い世代のわずか七%しか大学に行かなかったが、今や27%が大学に行っている。にもかかわらず、実際は、大学進学の適格者が増えているわけではないのだ。調査結果は、まさにその逆のセンセーショナルなもの」と指摘。さらに、高校終了時に実施されるアビトゥーア（abitur）（大学進学資格）制度の見直しも提言されているようだ。

最後に、その他の諸国の学生スポーツについて触れておくと、一九七四年、第6回世界学生ハンドボール選手権大会（ユニバシアード）がルーマニアで開催されたのをきっかけに、社会主義共和国や他のヨーロッパ諸国、ポリネシア諸島などアジアの国々を含めて、数多くの国際試合を研修することができた。その未熟な体験から学び得たものは、各々国情、風俗や習慣の異なる中で、残された民族独自の歴史や伝統を守り抜きながら、スポーツ文化の真髄を形成し、継承しようとする真摯な姿である。そし、国家の代表としてのナショナリズムは、ヨーロッパ勢においては、とくに国威発揚の徹底した理念で貫かれており、彼らにとっては青春ドラマの一ページでもあれば、生涯の生活保障と名誉を維持するための熾烈な闘いの場でもある。そして、そのことが彼らの生きがいであり、人間の心と心をつなぐシルクロードでもある。今後さらに国際交流の幅が拡大されていく時、日本人にとって「世界の栄光の座」がいかに高く、そして重く、きびしい挑戦の道のりであるか、力強い人生のドラマとしてその使命感を世界的視野の中で捉えることができるかが大きな課題になって来るであろう。

今日、新聞等のスポーツ欄を賑わしている大学スポーツは、全てがインターカレッジエートスポーツといってよく、それは現在の大学では課外体育として「大学体育」の柱となっている（全国大学保健体育研究集会報告書総括より）。課外体育は各人相互間の競争社会であり、その経験から自分は何を学びとり、何を身につけるべきかを知るための勝負の世界である。その意味で、今日の学生スポーツ界が個性的、独創的な国際人育成を目指している教育的意義と社会体育発展への果す技術強化の役割は、国院化促進時代の中でさらに重要性を深めていくことになるだろう。

国際レフェリーシンポジウム報告書Ⅳ

『レフェリーとトレーナーの協同について』

ＩＨＦ技術委員会／イワン・スノイ

光島　磯雄

親愛なるＩＨＦの幹部諸氏、ＩＨＦ－ＰＲＣの専門家諸氏、そして加盟国のレフェリーエキスパートの皆さん、そして地元ポルトガルの友人たちを前にして、私はここにＩＨＦ－ＣＣＭを代表して、委員長ヨアン・クンスト・ゲルマネスクに代って心からの挨拶を申し上げる。

我々が今まで見聞したように、このシンポジウムは相互のコンタクトを保つことに重要な意味を持つものと考えている。多くの専門家や世界各地のクラブやナショナルチームの代表として、ＴＭＫはこのシンポジウムに同席し今後もなお永続して行くべき世界のハンドボールの改良進歩を保障するための刺激役になりたいと思っている。

すべてのレベル段階でのトレーナーとレフェリー間の根本的重要点について、すでに多くの議論が行なわれた。ＩＨＦの最高評議会も現在の問題点として、すでに4年に一度のトップレフェリーとトレーナーが会合をするという考えを支持承認している。この両者の会合は、今でこそ当然のこととなっているが、先頃までは個々に別々に行なわれていたものである。これが実施されるようになって以来、シンポジウムは大きな成功をおさめるようになって来たといえる。

今日明らかなことは、ハンドボールの本質が根本的にレフェリーとトレーナーの協同如何にかかっているということである。レフェリーのルール解釈のニュアンスによって試合が左右されるということが、近来明らかとなっている。この頃しきりと発生しているのは一方のトレーナーにとっては肯定的であり、他方のトレーナーにとっては否定的とされるような単純な吹笛が、試合経過に決定的な役割を演じているということである。

それゆえ、多くの一流トレーナーは、レフェリーの決定は半分の事実しかみていないと一方的に考えている。今までの諸経験では、田舎チームとナショナルチームの試合水準に関してはさほどの相違はみとめられないことが明らかにされている。これら主体性の乏しい田舎チームの試合とは、対称的にナショナルチームの多くは自己に都合の悪い結果を弁明するため、しばしばこのことについてはねつけるような発言をする。試合場でのレフェリーの重い任務は、たしかに敬服に値するものである。同様に勝ちたいという心理的圧迫感が、トレーナー側にのしかかっていることも事実である。このためレフェリーやトレーナーは、常に甘い思いをすることなく、時としては、にがい薬も飲まなければならない。このような同様類似の宿命にもかかわらず、レフェリーとトレーナーは相互に責任をなすりつけ合っている。どこに真実があるのか。

この問題についての答えを見出すには、この両者の間の協調互譲と相互の理解が不可欠である。

レフェリー側の大きな要望としては、両者が完全に理解に達するとともに、隠健なトレーナーであってほしいということであり、それは、

—しばしば見られるような観衆の気を引くためにレフェリーの判定に対し何らかの身振りでアッピールをすることのないよう。

—レフェリーの吹笛への不満のため記録席に押しかけて来たりしないこと。

—観衆を扇動教唆しないこと。

—相手チームトレーナーと口論したりしないこと。

—トレーナー自身の不満状態により、チームやまわりの人々にいらだちの気持をあたえないこと。

トレーナー側としては、人間的に価値ある才幹能力と勘や手際の良さをそなえてルール解釈が確実な点で正当な権限を行使し、信頼性高いレフェリーを当然必要としている。もしレフェリーとトレーナーが相互に助け合うようになれば、そのときこそ正しくまともなハンドボールスポーツを求める上での成功感を相互にわかち合うことが出来るようになる。残念ながら、現今のこの種の無理解状態が最近ことにひどいものになりつつあることについて我々はその証人とならざるをえない。インターナショナルなハンドボールでは、必ずしも絶対必要とされるものではないにせよ、我々としてはこの立場で将来のための教訓を引き出すための示唆をすべきであると考える。

次の二つの例を示してみよう。

—ロサンゼルス・オリンピックという最高レベルで、トレーナーがその不正行為で罰せられたこと。

—他方カテゴリーＡレフェリーがヨーロッパカップでの職務上の失策により制裁を受けたこと。

我々がこのような最高の競技レベルで、しかもこのような無理解さを見聞きしたからには、低いレベルでの試合ではさだめし同様かまたはもっと危険なことが起こっている可能性が想像出来る。

世界のハンドボールの発展は、近来長足の進歩を遂げている。試合運行についての基本的な考え方の高度な立場と資質は、レフェリー・トレーナー・プレイヤーに課せられた広範囲にわたる責任である。今が防御と攻撃の理念の選択について、何も秘密のない高度な平衡感覚をそなえる時であるといえよう。

同等の力量を持つチームの試合では、レフェリーとトレーナーは常に心理的な圧迫感のもとで終わりまで耐えぬかなければならない。60分間の試合であらゆる種類のミスをおかすことは人間的ではあるが、このことがレフェリーのあやまった判定によるか、またはトレーナーの忍耐の限界を越えることになるかにつながる。まさしく一人のプレイヤーの決定的瞬間での単なるパスミスのように、レフェリーの単純な判定失敗はチームの

運命を左右してしまう。たとえば昇格か格下げか？　またはメダル獲得か喪失か？　二つの例を示す。

スウェーデンの有力シューターが試合の終わりがたの寸秒を争う時にフリースローを直接に人壁の横を通してシュートに成功し、そのためロサンゼルス・オリンピックでスウェーデンは、スペインに26対25で勝ったため86年2月～3月のスイスでのA世界選手権大会に選手なしで直接参加資格を得た。この得点がなかったとすれば、スペインは25対25で引き分けとなり、別の局面が発生したはずである。

ハンガリーのナショナルチームは、決定的な影響を受けた二つの試合シーンを体験した。一九七八年のデンマークでの世界選手権でルーマニアとの試合の最終的秒時を争う時にチームの抗議もあったが、いざこざの起こる問題点をはらんだ1点のリードを敵に与えてしまい、それが彼らにとってAグループからの脱落格下げを意味することとなった。これと対比するようにハンガリーは、西ドイツとの試合で最終時のタイムアウト寸前に12対12の引き分け試合に持ち込むことに成功し、このため西ドイツはロサンゼルス・オリンピックに出られなくなってしまった。

etc, etc…。

世界のトップチームレベルとの関連でも、このあやふやさが試合観察で見られるとおり、大きなものとなっている。この事実はBやCのグループよりもAグループに深刻さを増しつつあるとみる。近年の3年間の結果はすべてこれらの報告を裏づけるものである。

我々は過去の引き分けとなった試合や1～2点の差で勝ったチームのすべての試合を検討してみたが、そこで我々は両チーム共にこのようなギリギリの僅差で勝つようにと考えて試合をしているものと見ざるをえない。このことから、その時その時のレフェリーの判定が、試合の勝敗に大きな影響を及ぼしていることは明らかである。

以下の数値をみることは何らかの意味がある。（表1）

表　1

大　会　名	性別	全試合での引き分けと1～2点僅差試合%	頻　　度
a.1984ロサンゼルスオリンピック	女	46.6%	2.1試合に1回
b.1982(西ドイツで)Aグループ世界選手権	男	40.7%	2.3　〃
c.1982(ハンガリーで)Aグループ世界選手権	女	38.0%	2.6　〃
d.1984ロサンゼルス・オリンピック	男	36.1%	2.7　〃
e.1983(ポーランドで)Bグループ世界選手権	女	36.0%	2.7　〃
f.1983(オランダで)Bグループ世界選手権	男	35.7%	2.8　〃
g.1982(ベルギーで)Cグループ世界選手権	男	29.6%	3.3　〃
h.1985(ノルウェーで)Bグループ世界選手権	男	25.9%	3.8　〃
i.1984(イタリアで)Cグループ世界選手権	男	19.4%	5.1　〃

ばかばかしい笑うにも笑えぬ試合結果として62:3, 59:5, 61:4ということもあった。

より一層露骨な例としてあげれば、各種の国際大会、すなわち「ワールドカップ」「スーパーカップ」「ユーゴスラビアカップ」「ポーラーカップ」「カルパーテンカップ」「スペインカップ」「ザルジャ・ヴァストカ」「2月の勝者大会」「ハンガリアカップ」「アルビイ・マイヤー大会」「ノイブランデンブルガー大会」「黒海カップ」「四ヵ国対抗大会」「ズルディカ・カップ」「マーレ・ノストルム大会」などでは、従来考えられないような極端さが続けて起こっている。たとえば、今年ポーランドで行なわれた「バルティック・カップ」では、なんと全試合の53・3%が僅差（1～2点）または引き分けで1・8試合に1回という割合を示したのである。これ以外の解説は省略する。

大きな大会でのレフェリーの平均年齢がトレーナーに比較して常に高齢であるということも注目すべきである。一九八四年にロサンゼルス・オリンピックでの統計は我々にいろいろな印象を提供している。レフェリーの平均年齢は、42・1歳であったがここに11ペアの数値をあげる。もう1ペアは不参加であったがこれが来ていれば数値はもう少しあがっていたかも知れない。以下をみれば、なるほどと思うものがある。（表2）

トレーナーの平均年令は41・1歳で男子チーム・トレーナ！では40・5歳、女子チーム・トレーナ

表　2

オランダ	39・0歳
東ドイツ	40・5歳
フランス	40・5歳
デンマーク	40・5歳
ルーマニア	40・5歳
ハンガリー	40・5歳
ノルウェー	42・5歳
西ドイツ	43・0歳
スウェーデン	43・5歳
スイス	46・5歳
ユーゴスラビア	47・0歳

表　3

アルジェリア	32・0歳
韓国	33・5歳
アイスランド	34・0歳
スペイン	37・0歳
ユーゴスラビア	38・0歳
米国	38・5歳
スウェーデン	40・5歳
日本	43・5歳
ルーマニア	45・0歳
西ドイツ	49・0歳
※女子チームのトレーナーについては	
韓国	34・5歳
米国	34・5歳
西ドイツ	41・5歳
ユーゴスラビア	45・5歳
オーストリア	47・0歳
中国	54・0歳

ーでは、43・5歳である。

男子チーム・トレーナーについてみれば、（表3）

我々はここで考えるが、近い将来もっと若いレフェリーが召集されるようにならなければと思う。事実ノルウェーで行なわれた一九八五年のBグループ男子世界選手権でも、そこへ派遣されたレフェリーには若いペアーはいなかったし、それについての考慮もはらわれなかった。それは一九八四年のロサンゼルス・オリンピックの時よりも高い平均年齢であった。「ノルウェー」での平均年齢は、（表4）

表 4

オランダ	38・5歳
スウェーデン	39・0歳
ベルギー	40・5歳
フィンランド	40・5歳
ノルウェー	40・5歳
デンマーク	41・5歳
ルーマニア	41・5歳
ユーゴスラビア	41・5歳
エジプト	42・5歳
西ドイツ	44・0歳
チェコスロバキア	47・5歳
ソ連	49・0歳
※補欠レフェリーの年齢も勘定に入れればもっと高くなる。	
ノルウェー	43・0歳
スイス	48・0歳

以上はレフェリーとトレーナーの平均年齢についての証明になるであろう。42歳以上の人にとってその活動に哲学的な意味での終止符をうつことはなかなかむずかしいことである。このことは、すでにレフェリーまたはトレーナーとしての彼の趣味と日常活動に適合してしまっているからであるといえよう。しかしながら、考えようによっては、若いレフェリーは多くの場合、野心的、功名心的吹笛をすることが頻繁にある反面、高齢者はその長年月にわたる経験を裏づけとして試合を管理するという点で重要な役割を果たしているといえる。

ごく最近の二つの新しい例はこのことを明らかにしている。私自身、今年の「ヨーロッパカップ」の決勝を見た。一度は私はIHF公式試合観察者としてであった。この時の試合にはIHF公式観察者としてであった。この時の試合にはIHFカテゴリーAの中からもっと若いレフェリーペアによって吹笛された。この女子の試合は、それほどラフなものではなかったにもかかわらず、34分もの退場が科せられた。すべて2分退場であった。もう一つの男子の決勝試合では、どうみても数倍ははげしい程度で戦われたが、これにはカテゴリーAの最年長者ペアにより吹笛された。このペアはIHFレフェリーとして最後の活動であり、一人は50歳に達し近く定年者扱いを受けることとなっており、二人の平均年齢は前記の女子の試合を担当したペアよりも12歳年長であった。もちろん、この試合ははげしいものであったが、このペアが吹いた退場判定は女子試合に吹かれた数の半分以下である。なぜこんなことになるのか？　考えられる回答としては、一九八四年のドイツ・ハンドボール週刊誌（西独）に記述された以下のことがそれに相当するであろう。

世界選抜チーム・トレーナーにもあて良いような著名なトレーナーが考えるには、「レフェリーがラフプレーにきびしく対処しない限り、そして自己の魅力性（自己顕示）について悩んでいるうちは競技の発展進歩の前途は妨げとなるだけである。」

ある国（世界選手権などの大会を実施するような）の審判部長がいうには「すべてのレフェリーは何をどのように吹笛するかよく知っているはずである。それなのに彼らは激烈なる試合状況のもとではプレイヤーやトレーナーから影響を受けてしまう」

同様に名を知られたIHF役員の言によれば「試合の終わりの分秒単位状態では時としては、その限界に近づくこと自体が試合に勝つ方法手段となってしまう。このことは、現在の試合に非常に多くみられる。日頃から強調されているフェアープレーという言葉は、死語となっている。プレイヤーももはや昔ほどにはそのことに注意をはらおうとしていない。

世界中でどのレフェリーペアもその権威主義的な態度をとることで失策をおかしても、それをうらみに思うものはあまりない。一方若年のレフェリーにとっては、批判批評によって防ぐ以外に些細な失敗も責任をのがれることはゆるされない。もしレフェリーがトレーナーに対しなぜ意見思考の相違があるのかと問えば答は決まってこうである。「レフェリーの現行ルールについての解釈は拙劣である」これと同じ問をレフェリーにしたならば、このような返事が得られるであろう。「トレーナーはいつからどこからルール解釈の範囲におよぶ内容をより低く評価するような権限を持つようになったのか？」この答はハンドボール自身の歴史同様に古いものである。

当然のことながら、依然としてレフェリーとトレーナーの間でしきりに起こる理解のくいちがいについてのさまざまなルール上の問題が現に存在している。我々はすでに今まで何回もこのことをCCMで論議した。私がこの動機と根拠により、これらの諸問題を今回のシンポジウムの討論の材料に供するようCCM委員長に依頼したのはこのためである。多種多様にわたる問題は今もなお未解決である。

7―3、歩数について。理論上の歩数よりも経験による数え方の方が大切である。

14条、7mスロー。なぜ付加的に退場を併記しないのか。

7―5、レッドカード。前もってイエローカードの提示なく、直ちにレッドカードの提示をしないのはなぜか。

攻撃側の反則についての実際的な定義。

アドバンテージについての実際的な定義。

ゴールエリア上にとびこんでのパスについての実際的な定義。

他のことについて我々が近い将来に回答を得たいと思っていることを二つあげる。実地の経験によれば、ほとんどの試合場の床がピカピカ、すべすべであることは大きな問題である。どこかプラスティックの床をとり入れている所はないものか。

ヨーロッパカップの準々決勝まで戦ったチームがIHFに対し発言した。それは彼らがホームチームでなく、ゲストチームだったとしたら15点失っていたであろう。それはスベスベの床だったからである。何はさておいてもあのスベスベの床に出合ったらそれを大問題であるとする。ホームチームとして第1戦を戦えば、まず11点で勝てるであろうとか。

もう一つの件は、昨シーズンも多くの試合が体育館で行なわれたがそれが極めて低温におさえられていた事である。どこにこの温度についての限度を規定してあるのか、そしてまたプレイヤーを守るためこの規定をどこに要求すればよいのか。

今回のシンポジウムと次週オランダで行なわれるトレーナーのためのシンポジウムでは、多くの興味ある討議が出るであろう。IHFのCCMは、いわゆる「ベンチ規定」と称する新しいルールについても掘り下げた説明をする。

我々はこのルールがレフェリーを助けることを望んでおり、これによりプレイヤー、ベンチは従来より静かな状態が実現化することとなるであろう。



レフェリー・レポート

斉藤　実／千野恒夫

昨年10月の韓国での第5回女子ジュニア世界選手権大会に参加した斉藤実、千野恒夫両レフェリーの報告書の一部をここに紹介させて頂きます。

—IHF　PRC Werner Vick 氏講演要旨

'81改正からのルールの本質について良く理解してほしい。'85ルールに大きな変化はないが、くりかえし行なわれる（つかむ、抱きつく、押す、突く）反則には必ず段階的適用を行なうこと。特に8—13、17条についてはしっかりとした判定をしてほしい。始めに行なう判定にチームはついてくる。また、レフェリーは試されているともいえる。声を出したりしながらコンタクトをとる。シグナルも明確に出すように、笛も音色をしっかりと吹くように、始めのうちは相違があるかもしれないが、チームによく理解させること。2日間は勉強のつもりで頑張ってほしい。

この大会のレフェリーの一線がどこにあるのか。レフェリーの流れにチームはついてくるのだから、毎日毎日を大切にしてほしい。毎日のレフェリーについてのミーティングを毎朝予定している。

◇オランダにおいて先般講習会を実施し、その折りにもみられた事柄をも含めて細かな点について要望する。

・得点チャンスに関係ある反則のアドバンテージについては、入念に観察されたい。段階的適用があっての得点があった折りは、得点を認めた後に必ず罰則を適用せよ。これは、CR、GRの関係でプッシング、チャージングなどを確実にカバーするように望む。

・攻撃（OF）の反則であるが、手を広げた守り（DF）の所に突っ込むことは許される。しかし、DFの狭い所に突っ込むと反則である。

・DFが前に出て守ろうとしてきた。相手を交わしてのOFのフェイントプレーについては、接触したくらいのプレーはアドバンテージとして見ておく。

・パスした後、DFへの当たりに注意すること。反則の起こるケースが多い。

・退場でDFの少ない折りに時間を稼ぐプレーが見られる。たとえば、得点の時にGKがボールをゆっくりと出し、スローオフまでに時間をかける。

・多く見られる外側（サイド）からのシュートの際には、次のことに注意を。

・ボール対応する反則…7m

・ボール以外の身体を対象とした反則…イエロー（2分）＋7m

・アドバンテージということでプレーを見ている時にラインクロス、オーバーステップがあった時は、直ぐにアドバンテージのルール運用を停止するように。

・7mスローの時に正しく行なっていない。ジャンプやクロスなど足をよく見ること。

・国によって判定を変えるようなことをしてはならない。上手にやるようなことを考えず平常心で臨め。

・傷害発生と思われる時は、直ぐに医師を呼び入れ処置させるように。医師が少し位早く入ってしまっても罰する必要はない。

・オフィシャル席にはIHF5名着席。記録、計時係とのコンタクトを十分にとること。

・退場者のタイムの表示を明確にする。机上に入る時間と選手の番号を書いて表示をする。入る入らないはチームリーダーの問題であり、規則に違反をすれば罰する。

・交替位置の規定については、本大会が初めてである。注意を払って適用してほしいが、むしろ教えてやるつもりで臨んでほしい。

・規定に従わない状況については、その都度注意をして正させる。

○10月20日（レフェリーミーティング）前日のレフェリングについてWerner Vick氏によって指導があった。（大会は19日より開始され、第1試合のソ連対オランダ戦を日本ペアが吹いた）。

▼日本ペアについて

・手に当たったとはいえ、前に出てのケースと投げた後に当たるのとよく見よ。

・指示を早く出せ。説明のためのジェスチュアは遅らせてやれ。

・味方同士のぶつかりによる転倒をファールとして取ったことあり。

・足を使ってボールを止めたケースには、注意をあたえよ。

・腰を使って当たったりしたプレーは、段階的適用としてとれ。これに似たプレーで3回位の見落としがあった。

※最初であったために、特にノルウェーとデンマークのゴールド・レフェリーにコメントをもらった。

・試合の流れ、バリュエーションに対応して笛の音色、強弱をつけなければいけないが、概してあなた方の笛はソフトに吹いている。我々の笛は、ハードであるが、強弱をつけ故意（インテンショナル）の反則、特にシリアスの時は、より強く吹いている。

※デンマークのM. Henrik Mortensen（今大会決勝レフェリー）からは、重要な事だからと。

・試合の中に笛が多過ぎるきらいがあった。もっとスムーズにゲームをさせた方が良い。2分が取りきれていない。段階的適用をどんどん使うべきである。

・両チームのコーチがベンチの前を動いていたのが見えていたか？　勿論座らせなければいけないであろう。イエロー対象でもありえる。

・リラックスするために二人は母国語を使って試合の中で話をしたらいい。プレーヤーは日本語は全くわからないから。

※このようにIFの委員の独語による講義が終わると一応解散。後ノルウェーのレフェリーを中心に英語の通訳をしてもらいながら、スカンジナビアのレフェリーはこんなことを感じてるなどと話は深まった。

●19日の第2試合以降の試合後のIF委員の方からのコメント

を紹介する。

▼西ドイツペアについて

・パッシプレーが早過ぎたために日本チームの動きが止まった傾向に見えた。

・フリースローのポイントが正しく行なわれていない。ラインクロスをしていた（フリースローはゴールを直接狙う場合をさす）。

・反スポーツマンシップのプレーのくり返しには2分が望ましい。

・スローオフは待たしてでもセンターから正しく行なった方が良い。

▼韓国ペアについて

・つかんで放すことのくり返しをしているプレーヤーには段階的適用を行なえ。

・腕ではさむような守り、しかも巧妙にレフェリーの目を迷わす行為にはワーニングを与えるべきだ。

・ルーマニアのプレーの中に顔に向かって手がいっている危険な守りが多く見られた。

・GKの顔にボールが直接当たった場合は、必ずしもタイムアウトをとらなくても良いがふらふらしているGKを見た時はタイムアウトをとり、コーチ、ドクターを呼び入れる事が望ましい。

・ボールが少しばかり遠くにいったとてタイムアウトをとるな。GKの交替には必ず必要とするが、反則の後など早く始めるのも観衆を楽しませることにもなる。すべてを止めるようなことはしないように。

※このように、IHFメンバーの毎日2時間におよぶミーティングは、時には厳しい指摘を、また暖かい示唆を頂き、日毎に自信を持たせるように実に素晴らしい教育者のようだとメンバーの人柄、人格者の一端をひしひしと感じ、感銘を覚えた。

IHFメンバーの光島氏によると、試合日の夕食後ワドマーク氏の部屋に集まり、レフェリーの指導内容や運営について細かなミーティングを1～2時間しっかりしているとの事。指導いただく事柄にもひとつひとつ内容、意味するところをしっかり勉強せよとの助言をいただいた。

毎試合後のレフェリーミーティングの状況は、前述のとうりに、一試合毎担当したレフェリーへの指導、助言を中心に実施された。

これらのミーティングの中から今後のレフェリングの中に生かしていきたい、また参考にしていきたい事項についてまとめていた。この中には、6月西ドイツで実施した世界学生のレフェリー報告書（岡本・清水報告）と、当然ながら同様の事項が重複したところもある。

◇レフェリングについて

※ファールの見落としをしないように、CR、GRとの役割をしっかり果たす。

（例）攻撃（OF）の反則……ポストプレーヤーにボールが渡った。DFに寄り添うようにして、肘や肩でチャージしているとか、ボールをパスした後の当たり、腕でのチャージングなど……

※段階的適用を適確に。

Warning……2分。

（例）ボールの展開していない位置のFPをDFがホールディングしているのを、フリースロー相当のホールディングであってもすかさず警告。つぎは2分。

※こんなケースはすかさず2分。

（例）。ポストの移動するのを腕でひっかけていくプレー。2分。

。シューターへの動作に対応するプレーとして

・ボールを無視して、体に向かっていくプレー（両手で押す、突き上げる、腰を使ってプッシング）

・顔に向かって手を突き出す。

・勿論、後ろからの両手突きなどは従来どうり。

※こんなケースは、すかさず警告。

（例）ホールディングの笛が鳴りそうな時にぱっと離す。また、相手の手を巧妙に腕にはさむ。そして素早く動きを止める。などのくり返し。

・ベンチのコーチ、選手がベンチを離れて、ベンチの前を動き回る。選手がベンチ周辺でアップすると、注意……続けると警告。

・腕で捲く、捲きついていくようなプレー（表現が難しいがホールドするような場合）。

※こんなケースはOFのチャージ。

・狭い所に突っこむ、肩から当たっていく、腰で当たる。

・前述のことで、ポストプレーヤーがボールをとりシュートに移る前にDFに当たる。このケースしっかりと見て判定を早くしないと、DFのファールに発展してしまい、ナイスDFをつぶす結果となる。

※アドバンテージとして生かすかどうかをしっかり見る。

※退場者のある場合のパッシブプレーに素早く対応するようにする。

※退場者のいる場合、時間稼ぎのプレーにはタイム・アウトをしっかりとる。

※笛の音は、強弱、長短を場面に応じて演出してみてはどうだろうか。

※シュートの際の着地をしっかりと見ぬく目を持つ。

以上、レフェリングにこんな点に気をつけて頑張る必要があり、今後のレフェリーワークに役立てたいとまとめた次第である。

各地の記録から・・・

石川県高校新人大会

（11月14日～17日／金沢市民体育館、松任若宮体育館）

〈男子〉

▼予選リーグ

○A組
小松明峰 30－7 県工
向陽 23－19 羽咋
小松明峰 38－14 向陽
県工 32－13 羽咋

○B組
小松工 47－5 大聖寺
二水 29－9 松任
小松工 47－10 二水
大聖寺 21－20 松任

○C組
金沢市工 21－14 小松商
小松 32－12 寺井
金沢市工 17－12 小松
小松商 36－9 寺井

○D組
星稜 19－16 松陵工
泉丘 22－15 松陵工
星稜 19－12 泉丘
錦丘 17－11 金沢商
泉丘 20－17 金沢商

▼決勝トーナメント1回戦
小松商 16－14 錦丘
県工 27－15 二水
向陽 25－11 大聖寺
泉丘 21－17 小松

▼2回戦
小松明峰 28－12 泉丘
小松工 39－15 小松商
金沢市工 24－9 県工

▼準決勝
星稜 25－11 向陽
小松工 17－15 小松明峰
星稜 21－18 金沢市工

▼決勝
小松工 35（17－8、18－6）14 星稜

※小松工は3年連続10回目の優勝。

〈女子〉

▼予選リーグ

○E組
小松明峰 34－3 星稜
金沢商 23－5 松任
小松明峰 20－10 金沢商
松任 17－14 星稜
小松明峰 32－3 松任
金沢商 26－3 星稜

○F組
小松市女 21－8 小松商
小松市女 36－1 寺井
小松商 40－1 寺井

▼準決勝
小松商 30－8 小松明峰
小松市女 36－1 金沢商

▼決勝
小松市女 17（7－5、10－4）9 小松商

※小松市女は9年連続17回目の優勝。

埼玉県高校新人大会

（11月14、16、23、24、30日、12月1日／朝霞市民体育館他）

〈男子〉

▼予選リーグ

○A組
浦和実 32－6 熊谷
浦和実 38－7 川口
熊谷 20－20 川口

○B組
川口青陵 23－19 川口工
川口青陵 26－17 浦和市立
川口工 21－19 浦和市立

○C組
浦和西 24－15 城西川越

○D組
埼玉栄 25－14 大宮北
埼玉栄 34－8 狭山
大宮北 35－15 狭山

○E組
春日部工 30－15 城北埼玉
春日部工 23－13 草加
城北埼玉 25－13 草加

○F組
川口北 29－15 志木
川口北 45－6 久喜工
志木 32－5 久喜工

○G組
浦和学院 37－9 庄和
浦和学院 35－10 春日部
庄和 26－23 春日部

○H組
上尾東 27－22 草加東
上尾東 25－19 羽生一
草加東 18－18 羽生一

○I組
川口東 25－10 上尾南
川口東 36－10 所沢緑ケ丘
上尾南 19－12 所沢緑ケ丘

○J組
春日部共栄 29－12 北本
春日部共栄 27－7 小松原
北本 28－7 小松原

○K組
朝霞 23－19 埼玉第一
朝霞 33－4 越谷西
埼玉第一 30－10 越谷西

○L組
浦和南 32－10 大宮
浦和南 33－16 桶川
浦和南 27－6 農大三
大宮 19－15 桶川
大宮 22－15 農大三
桶川 17－11 農大三

○M組
伊奈学園 46－4 桶川西
伊奈学園 79－0 大井

○N組
所沢北 23－12 県立坂戸
所沢北 29－12 秩父
県立坂戸 32－12 秩父

○O組
科学技術 20－13 朝霞西
科学技術 23－10 秩父農工
朝霞西 24－12 秩父農工

○P組
大宮南 16－7 上尾沼南
大宮南 50－2 昌平
上尾沼南 37－7 昌平

○Q組
岩槻 22－20 筑波大阪戸
岩槻 23－22 富士見
筑波大阪戸 35－13 富士見

○R組
越谷南 22－13 三郷北
越谷南 36－3 八潮南
三郷北 29－13 八潮南

○S組
戸田 32－10 春日部東
戸田 48－12 浦和工
春日部東 30－13 浦和工

○T組
西武台 31－14 聖望
西武台 30－8 和光
聖望 12－15 和光

▼決勝トーナメント1回戦
筑波大阪戸 20－18 上尾沼南
城西川越 25－8 朝霞西

庄和 22－17 三郷北
聖望 27－24 春日部東
埼玉第一 33－9 北本
上尾南 20－15 熊谷
大宮北 22－11 県立坂戸
城北埼玉 30－19 大宮

▼2回戦

浦和実 24－7 筑波大阪戸
川口東 25－16 志木
春日部共栄 25－19 朝霞
城西川越 25－15 上尾東
春日部工 19－15 庄和
川口工 21－16 浦和南
伊奈学園 33－9 所沢北
埼玉栄 33－12 聖望
浦和西 25－11 埼玉第一
草加東 31－27 科学技術
大宮南 39－7 岩槻
川口北 38－3 上尾南
浦和学院 43－20 大宮北
越谷南 12－0 桶川西
戸田 24－23 西武台
川口青陵 34－13 城北埼玉

▼3回戦

浦和実 27－9 川口東
城西川越 17－14 春日部共栄
川口工 25－22 春日部工
埼玉栄 30－14 伊奈学園
浦和西 38－13 草加東
川口北 23－10 大宮南
浦和学院 25－13 越谷南
川口青陵 26－21 戸田

▼4回戦

浦和実 27－13 城西川越
川口工 16－15 埼玉栄
川口北 20－17 浦和西
浦和学院 22－20 川口青陵

▼準決勝

浦和実 18－16 川口工
浦和学院 24－21 川口北

▼決勝

浦和学院 14（7－5、7－8）13 浦和実

※浦和学院は初優勝。

〈女子〉

▼予選リーグ

○a組
浦和実 17－0 越谷南

○b組
川口青陵 35－4 大宮武蔵野

○c組
川口女 29－1 秋草学園
川口女 44－3 戸田
秋草学園 18－7 戸田

○d組
浦和南 33－10 浦和市立
浦和南 31－5 浦和商
浦和市立 19－15 浦和商

○e組
川口東 16－7 春日部女
川口東 18－5 上尾南
春日部女 16－9 上尾南

○f組
川口北 25－10 熊谷女
川口北 29－4 小松原女
熊谷女 20－11 小松原女

○g組
羽生一 36－5 志木
羽生一 38－2 草加南
志木 17－5 草加南

○h組
三郷北 27－3 幸手商
三郷北 17－2 和光
幸手商 11－7 和光

○i組
狭山 15－10 熊谷商
狭山 21－9 春日部東
熊谷商 15－5 春日部東

○j組
朝霞 19－16 上尾東
朝霞 16－13 大宮開成
上尾東 12－10 大宮開成

○k組
行田女 15－10 伊奈学園
行田女 15－10 浦和学院
伊奈学園 18－6 浦和学院

○l組
筑波大阪戸 12－4 大宮南
筑波大阪戸 19－7 八潮南
大宮南 7－5 八潮南

○m組
浦和西 23－18 八潮
浦和西 31－1 北本
八潮 25－4 北本

○n組
草加東 17－12 庄和

○o組
春日部共栄 21－6 所沢北

▼決勝トーナメント1回戦

狭山 18－8 大宮南
熊谷女 23－8 朝霞
三郷北 14－11 八潮
川口東 27－10 志木
行田女 22－6 大宮武蔵野
所沢北 11－4 筑波大阪戸
浦和南 30－7 庄和
川口女 31－3 幸手商
浦和西 28－3 熊谷商
草加東 24－5 秋草学園
川口北 22－2 越谷南
羽生一 36－6 春日部女
春日部共栄 15－12 浦和市立
伊奈学園 21－7 上尾東

▼2回戦

浦和実 17－7 狭山
三郷北 19－1 熊谷女
行田女 15－8 川口東
浦和南 26－7 所沢北
川口女 18－16 浦和西
川口北 12－6 草加東
羽生一 12－0 春日部共栄
川口青陵 23－12 伊奈学園

▼3回戦

浦和実 8－3 三郷北
浦和南 21－5 行田女
川口女 17－11 川口北
川口青陵 23－13 羽生一

▼準決勝

浦和南 19－8 三郷北
川口青陵 27－12 川口女

▼決勝

川口青陵 25（13－6、12－13）19 浦和南

※川口青陵は初優勝。

東京都高校

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼予選リーグ

○イ組
広尾 22－15 成城
広尾 21－14 鷺宮
成城 26－20 鷺宮

○ロ組
西 21－9 本所
修徳 21－18 西
修徳 19－16 本所

○ハ組
深川 12－12 駒込
深川 15－11 葛飾野
葛飾野 15－11 駒込

○ニ組
府中東 21－7 田無工
府中東 21－8 久留米
田無工 19－17 久留米

○ホ組
篠崎 18－18 東
篠崎 19－8 白鴎
東 18－10 白鴎

○ヘ組
武蔵村山 34－10 小金井工
武蔵村山 20－17 東村山
東村山 41－6 小金井工

○ト組

駒大高 28－4 明正
駒大高 33－4 南
南 15－8 明正

○チ組
清瀬 33－3 山崎
清瀬 17－8 秋留台
秋留台 42－2 山崎

○リ組
江戸川 21－11 学大附
江戸川 キケン 筑波大附
学大附 キケン 筑波大附

○ヌ組
南多摩 22－13 砂川
南多摩 22－15 八王子工
砂川 22－9 八王子工

○ル組
青山 30－7 城北
青山 18－6 富士
富士 11－9 城北

○ヲ組
錦城 37－22 東大和南
錦城 23－20 小平西
小平西 21－21 東大和南

○ワ組
南葛飾 21－16 豊多摩
南葛飾 16－10 大泉
豊多摩 16－9 大泉

○カ組
国分寺 39－8 武蔵野北
国分寺 16－14 保谷
保谷 21－9 武蔵野北

○ヨ組
杉並 22－8 青山学院
杉並 16－8 大崎
大崎 13－10 青山学院

○タ組
昭和一工 19－15 小金井北
昭和一工 18－16 創価
小金井北 19－16 創価

○レ組
筑波駒場 25－12 日大二
筑波駒場 16－15 早実
日大二 18－14 早実

○ソ組
羽村 21－17 五商
羽村 19－17 南平
五商 28－8 南平

○ツ組
東京 31－5 両国
東京 33－11 江北
両国 17－12 江北

○ネ組
立川 33－11 忠生
立川 30－20 八王子東
忠生 17－16 八王子東

○ナ組
早大学院 21－5 荻窪
早大学院 28－8 園芸
園芸 12－8 荻窪

○ラ組
神代 13－10 武蔵
神代 33－8 秋川
武蔵 8－8 秋川

○ム組
科技工 19－7 大泉北
科技工 16－13 雪谷
雪谷 21－14 大泉北

○ウ組
日野台 18－17 南野
日野台 17－3 稲城
南野 17－16 稲城

○ヰ組
井草 35－6 向丘
井草 14－14 江東工
江東工 24－7 向丘

○ノ組
田無 24－12 明星学園
田無 15－13 福生
福生 25－12 明星学園

○オ組
小岩 26－10 蒲田
小岩 15－9 墨田川
蒲田 17－15 墨田川

○ク組
日野 22－7 富士森
日野 27－6 東京菅生
富士森 23－12 東京菅生

○ヤ組
足立 25－10 武工大附
足立 22－14 小石川工
武工大附 23－12 小石川工

○マ組
東大和 27－20 調布北
東大和 28－10 武蔵村山東
調布北 30－11 武蔵村山東

○ケ組
新宿 16－13 城西
新宿 19－9 佼成
佼成 24－19 城西

○フ組
国立 35－9 小平南
国立 23－16 三鷹
三鷹 24－10 小平南

○コ組
開成 14－5 上野

○エ組
府中西 21－8 館
府中西 16－14 野津田
野津田 28－3 館

▼決勝トーナメント1回戦
府中東 14－11 深川
駒大高 23－14 清瀬
江戸川 18－11 南多摩
錦城 19－17 南葛飾
筑波大駒場 12－11 昭和一工
東京 23－8 羽村
神代 13－11 科技工
井草 26－9 田無
小岩 14－14 日野 3PTC2
開成 24－12 府中西

▼2回戦
明星 21－13 広尾
府中東 28－15 修徳
武蔵村山 21－16 篠崎
農大一 20－13 駒大高
江戸川 12－11 石神井
錦城 21－10 都青山
国分寺 26－14 杉並
拓大一 17－13 筑波大駒場
東京 13－10 中大附
立川 12－12 早大学院 3PTC0
神代 13－5 日野台
目黒 17－16 井草
府中 16－13 小岩
東大和 21－11 足立
新宿 19－19 国立 3PTC0
日体荏原 25－7 開成

▼3回戦
明星 32－5 府中東
農大一 32－16 武蔵村山
江戸川 26－14 錦城
拓大一 26－11 国分寺
立川 13－12 東京
目黒 16－10 神代
府中 16－15 東大和
日体荏原 28－13 新宿

▼4回戦
明星 22－13 農大一
拓大一 20－10 江戸川
立川 17－12 目黒
日体荏原 32－15 府中

▼準決勝
明星 15－12 拓大一
日体荏原 24－8 立川

▼決勝
明星 20（11－7、9－6）13 日体荏原

〈女子〉
▼予選リーグ
○あ組
国立 25－4 東京菅生

○い組
国立 22－3 日野台
日野台 8－3 東京菅生

○う組
菊華 6－6 小岩
菊華 20－9 一商
小岩 6－2 一商

○え組
保谷 19－2 小金井北
保谷 19－13 五商
五商 12－5 小金井北

○お組
江東商 24－3 大泉北
江東商 15－7 文大杉並
文大杉並 15－4 大泉北

○か組
立教女 29－2 東
立教女 16－5 井草
井草 20－4 東

○き組
農大一 16－6 南葛飾

○く組
小平 15－8 明星学園
小平 18－1 武蔵野北
明星学園 10－7 武蔵野北

○け組
葛飾野 7－2 南
葛飾野 8－7 西
西 12－7 南

○こ組
府中西 13－6 八王子東
府中西 10－5 南野
南野 8－5 八王子東

○さ組
青山学院 8－1 本所
青山学院 12－3 雪谷
雪谷 5－4 本所

○し組
東大和 20－10 富士森
東大和 13－9 武蔵
富士森 10－8 武蔵

○す組
砂川 キケン 吉祥女
砂川 9－4 共立二
共立二 キケン 吉祥女

○せ組
江戸川 9－6 上野

○そ組
拓大一 24－2 府中東
拓大一 19－5 文華女
文華女 17－2 府中東

○た組
桜水商 18－2 広尾
桜水商 21－1 三商
広尾 13－5 三商

○ち組
二商 13－7 福生
二商 8－7 館
館 11－6 福生

○つ組
学大附 20－0 明正
学大附 10－5 富士
富士 20－3 明正

○て組
篠崎 キケン 葛飾商
篠崎 11－2 白鴎
白鴎 キケン 葛飾商

○と組
府中 17－1 農業
府中 21－1 武蔵野女
農業 16－2 武蔵野女

○な組
豊多摩 6－6 目黒
豊多摩 9－4 杉並
目黒 5－4 杉並

○に組
田無 10－9 清瀬
田無 13－7 東村山
清瀬 10－6 東村山

○ぬ組
墨田川 13－2 家政大附
墨田川 12－4 日大二
家政大附 6－3 日大二
調布北 15－9 武蔵村山東

▼決勝トーナメント1回戦
国立 28－5 菊華
江東商 17－11 保谷
国分寺 5－3 立教女
日体桜華 15－5 農大一
小平 17－8 葛飾野
青山学院 7－1 府中西
石神井 11－8 東大和
桐朋女 11－7 砂川
拓大一 12－6 江戸川
桜水商 18－4 二商
神代 11－3 学大附
日野 7－4 篠崎
府中 14－3 豊多摩
墨田川 8－6 田無
佼成女 18－1 調布北

▼2回戦
藤村女 15－8 国立
江東商 8－3 国分寺
日体桜華 19－9 小平
石神井 14－0 青山学院
拓大一 9－7 桐朋女
桜水商 7－6 神代
日野 5－3 府中
佼成女 24－3 墨田川

▼3回戦
藤村女 17－13 江東商
石神井 15－9 日体桜華
桜水商 18－9 拓大一
佼成女 26－4 日野

▼準決勝
藤村女 18－9 石神井
佼成女 37－6 桜水商

▼決勝
佼成女 24（11－9、13－2）11 藤村女

佐賀県中学新人大会

（11月23日／神埼農高）

〈男子〉

▼1回戦
基山中 23－11 千代田中
神埼中 23－4 脊振中

▼準決勝
基山中 37－10 多久中央中
神埼中 16－15 城北中

▼決勝
基山中 18（12－4、6－5）9 神埼中

〈女子〉

▼1回戦
千代田中 6－2 脊振中
多久中央中 7－6 神埼中

▼決勝
多久中央中 12（5－2、7－8）10 千代田中

三重県高校秋季選手権

（11月17、23、24日／四日市市霞ケ浦体育館他）

〈男子〉

▼1回戦
海星 14－13 亀山
桑名西 15－7 日生第一
津工 16－9 高田
桑名工 17－10 尾鷲

▼2回戦
四日市工 39－13 海星
四日市南 20－10 四日市四郷
四日市西 19－8 津
四日市 28－10 桑名西
津東 24－12 津工
津西 19－18 四日市中央工
日生第二 19－6 桑名北
桑名 19－7 桑名工

▼3回戦
四日市工 32－12 四日市南
四日市 21－16 四日市西
津東 29－14 津西
桑名 キケン 日生第二

▼準決勝
四日市工 24－11 四日市
桑名 15－14 津
▼3位決定戦
津東 16－15 四日市
▼決勝
四日市工 28（13－9、15－8）17 桑名

〈女子〉
▼1回戦
亀山 37－6 津西
桑名 17－4 津
津東 16－3 桑名北
四日市四郷 16－9 尾鷲
四日市南 15－10 上野
四日市西 10－6 四日市
▼2回戦
暁 40－5 亀山
津東 14－9 桑名
四日市南 28－8 四日市四郷
四日市西 10－8 泗商
▼準決勝
暁 34－3 津東
四日市南 12－11 四日市西
▼3位決定戦
四日市西 20－5 津東
▼決勝
暁 20（10－6、10－1）7 四日市南

千葉県実業団秋季リーグ戦

（11月17、23、24日／コスモ石油体育館）
▼1部
日産石化 25－25 出光千葉
海自下総 34－14 海自木補所
三井石化 28－24 コスモ石油
海自下総 27－20 出光千葉
三井石化 30－19 海自木補所
コスモ石油 35－23 日産石化
コスモ石油 27－22 出光千葉
三井石化 26－20 出光千葉
コスモ石油 31－11 海自木補所
海自下総 30－24 日産石化
出光千葉 20－16 海自木補所
三井石化 24－18 日産石化
海自下総 23－19 コスモ石油
[順位]①海自下総②三井石化③コスモ石油④出光千葉⑤日産石化⑥海自木補所
▼2部
東京電力 26－14 海自館山
東京ガス 18－17 海自館山
東京ガス 18－17 東京電力
[順位]①東京ガス②東京電力③海自館山
▼1・2部入れ替え戦
海自木補所 20－18 東京ガス
※海自木補所は1部に残留。

第3回千葉県中学新人大会

（11月23、24／福栄中）
〈男子〉
▼1回戦
花園 19－8 流山南部
河原塚 14－11 柏三
富岡 13－11 葛飾
東邦 18－6 見明川
花見川一 22－16 柏南部
市川 27－7 千城台南
逆井 16－5 野田一
▼2回戦
福栄 21－12 花園
富岡 12－10 河原塚
東邦 15－11 花見川一
市川 16－15 逆井
▼準決勝
福栄 21－11 富岡
市川 21－15 東邦
▼決勝
市川 14（8－7、6－6）13 福栄

〈女子〉
▼1回戦
野田一 14－11 上志津
▼2回戦
野田一 不明 葛飾
貝塚 18－3 柏三
福栄 11－7 磯辺二
佐原二 21－3 昭和学院
市川二 19－5 湖北台
大栄 17－9 こてはし台
東国分 7－6 逆井
花園 16－8 聖徳短大附
▼3回戦
貝塚 15－8 野田一
佐原二 13－11 福栄
市川二 21－12 大栄
花園 26－3 東国分
▼準決勝
貝塚 14－13 佐原二
市川二 13－5 花園
▼決勝
市川二 14（8－4、6－9）13 貝塚

第23回山形県総合選手権

（11月30日～12月1日／東根市民体育館）
〈成年男子〉
▼1回戦
大石田高矢作会 31－19 新庄RC
新庄工高A 21－12 東根工高B
山形工高B 18－10 日大山形高
新庄工高B 30－18 東根工高A
山形工高A 21－8 真室川高A
▼2回戦
真室川高OB 16－10 大石田高矢作会
山形大 36－9 尾花沢ク
新庄ク 35－12 大東ク
新球会 24－14 東根球友会
真室川高B 39－23 新庄工高A
山形工高B 20－12 山形東高B
新庄工高B 26－23 山形東高A
山形工高A 13－12 大石田高
▼3回戦
山形大 23－20 真室川高OB
新庄ク 27－19 新球会
真室川高B 37－13 山形工高B
新庄工高B 19－16 山形工高A
▼準決勝
山形大 25－14 新庄ク
真室川高B 29－19 新庄工高B
▼決勝
山形大 25（9－10、12－11、3－1、1－3、4PTC3）25 真室川高B
※山形大は4年ぶり2回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
山形大 36－11 竹桜ク
日大山形高A 27－13 竹田女高
米沢女高 12－11 日大山形高B
▼準決勝
山形大 22－14 米沢女OG会
日大山形高A 20－9 米沢女高
▼決勝
日大山形高A 21（11－9、10－5）14 山形大
※日大山形高は初優勝。

第18回長野県高校新人大会

（11月30日、12月1日／更埴市民体育館、戸倉町総合体育館）
〈男子〉
▼1回戦
野沢南 26－6 上水内北部
田川 16－15 上田千曲
坂城 23－15 臼田
野沢北 12－6 松本一
小諸 27－10 北佐久農
▼2回戦

上田 20－12 野沢南
坂城 21－19 田川
屋代 27－10 野沢北
小諸 27－8 松本美須々ケ丘
▼準決勝
上田 25－14 坂城
屋代 18－14 小諸
▼決勝
上田 15（7－6、8－8）14 屋代
※上田は2年ぶり5回目の優勝。
〈女子〉
▼1回戦
松本蟻ケ崎 20－13 北佐久農
臼田 20－11 小海
▼2回戦
佐久 50－4 松本蟻ケ崎
屋代 17－8 田川
小諸商 9－5 松本美須々ケ丘
塩尻 29－10 臼田
▼準決勝
佐久 23－2 屋代
塩尻 23－7 小諸商
▼決勝
佐久 26（16－7、10－9）16 塩尻
※佐久は2年ぶり4回目の優勝。

会長杯争奪第3回愛知トーナメント大会

（12月2～6日／名古屋市体育館）
〈男子〉
▼1回戦
トヨタ自動車 27－20 中部大
愛知教員 29－17 豊田合成
トヨタ車体 23－20 桜丘会
中京大 28－20 豊田自動織機
▼準決勝
トヨタ自動車 30－18 愛知教員
中京大 21－19 トヨタ車体
▼決勝
トヨタ自動車 25（11－8、14－10）18 中京大
※トヨタ自動車は初優勝。
〈女子〉
▼1回戦
ブラザー工業 43－5 愛知教育大
愛知教員 30－22 中京女大
▼決勝
ブラザー工業 23（12－1、11－10）11 愛知教員
※ブラザー工業は3年連続3回目の優勝。

第4回愛知県中学生大会

（12月15、22日／名古屋市体育館）
〈男子〉
▼1回戦
牧の池 16－9 扶桑
春日井中部 17－11 東山
前芝 28－13 甚目寺
浅井 13－9 富木島
▼2回戦
牧の池 13－13 大塚（3PTC2）
春日井中部 19－12 汐路
東陵 22－13 前芝
浅井 18－11 美川
▼準決勝
牧の池 10－10 春日井中部（3PTC1）
東陵 24－8 浅井
▼決勝
東陵 15（7－6、8－5）11 牧の池
〈女子〉
▼1回戦
萩原 8－4 前林
大高 16－9 牟呂
内海 8－5 大塚
矢田 19－4 城東
▼2回戦
神沢 12－5 萩原
石尾台 12－9 大高
内海 13－11 尾西第一
矢田 16－9 新香山
▼準決勝
神沢 10－3 石尾台
矢田 16－7 内海
▼決勝
神沢 15（7－1、8－6）7 矢田

第28回岩手県総合選手権

（12月20日～22日／花巻市民体育館）
〈男子〉
▼1回戦
花巻ク 42－10 盛岡三高
盛岡商友会 28－26 花巻北高
盛岡四高 26－26 花巻送球会（2PTC0）
岩手大 40－9 盛岡南高
岩手教員ク 23－13 釜石南高
大迫高 33－22 岩手フェザント
鵬ク 23－17 盛岡一高
白亜ク 31－25 花巻農高
▼2回戦
花巻ク 25－17 盛岡商友会
岩手大 28－12 盛岡四高
岩手教員ク 23－21 大迫高
白亜ク 26－10 鵬ク
▼準決勝
花巻ク 20－18 岩手大
岩手教員ク 17－16 白亜ク
▼決勝
花巻ク 22（12－8、10－10）18 岩手教員ク
〈女子〉
▼1回戦
盛岡二高 11－5 岩手桐花ク
ギャロップレディースク 18－7 釜石南高
岩手大 24－5 花巻南高
白梅三英会 22－13 花巻北高
▼準決勝
盛岡二高 19－9 ギャロップレディースク
白梅三英会 14－10 岩手大
▼決勝
盛岡二高 20（0－9、6－5、3－2、3－0）16 白梅三英会

全国高校選抜岩手県予選

（1月10、11日／花巻市民体育館）
〈男子〉
▼リーグ戦
盛岡四 21－14 大迫
盛岡一 13－12 花巻北
花巻北 23－14 盛岡四
盛岡一 16－11 大迫
盛岡一 12－10 盛岡四
花巻北 17－14 大迫
［順位］①盛岡一②花巻北③盛岡四④大迫
〈女子〉
▼リーグ戦
盛岡二 17－7 花巻南
花巻北 14－10 釜石南
盛岡二 11－7 釜石南
花巻北 9－8 花巻南
盛岡二 15－6 花巻北
花巻南 13－7 釜石南
［順位］①盛岡二②若巻北③花巻南④釜石南

昭和61年度主要競技会日程

第27回全日本実業団選手権〈女子〉
（4月24日～27日／名古屋）
第27回全日本実業団〈男子〉
（5月15日～18日／大阪）
第11回日本リーグ〈前期〉
（5月31日～6月22日／各地）
第37回全日本高校選手権
（8月1日～7日／徳山）
第29回全日本教職員選手権
（8月9日～14日／沖縄）
第13回全国高専選手権
（8月12日～13日／呉）
第6回全国クラブ選手権
（8月15日～17日／福井）
第15回全国中学校大会
（8月21日～24日／横浜）
第41回国民体育大会
（10月12日～17日／塩山）
第11回日本リーグ後期
（10月25日～11月16日/各地）
第18回全日本自衛隊選手権
（日程未定／東京）
第28回全日本学生選手権
（11月20日～24日／京都）
第38回全日本総合選手権
（12月24日～28日／東京）
第5回オールスター戦
（62年1月中旬）
第10回全国高校選抜大会
（62年3月24日～28日／名本屋）

前号の表紙で、湧永が湧水となっておりました。深くお詫び申し上げます。

インフォメーション＆トピックス

第4回香港国際大会 日本代表選手団

〈役　員〉
監　督　本田　洋（39）日本協会
コーチ　早川　清孝（39）日本協会

〈選　手〉

	背番号	氏　名	年齢	所　属
G.K	1	高橋　克己	(19)	早稲田大
	12	浅沢　誠彦	(18)	桃山学院高
F.P	2	甲斐　章義	(19)	早稲田大
	3	長嶺　毅志	(18)	新居浜工業高
	4	大江　義弘	(18)	高岡向陵高
	5	野中　宏洋	(19)	日新製鋼
	6	三輪　澄高	(18)	中京高
	7	小池　暢男	(17)	久留米工大附高
	8	加地　稔典	(18)	都島工業高
	9	新井　友彦	(19)	筑波大
	10	田中　孝	(19)	大阪体育大
	11	藤本　光次	(18)	岩国工業高
	13	村田　文彦	(19)	大阪体育大
	14	堀田　幹人	(18)	中京高

ぬくもりのメカトロニクス
brother

売ってないものは、作るしかない。

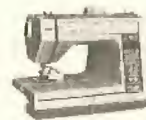


の



。

アロハのパンツ、作りました。ハワイで買ってきたデッドストック、ユーのためにバラしたんです。Y.G.ってイニシャルもいれましたのよ。私のお胸からユーのおしりへ。気に入ったら、シリーズでクリエーチブしちゃいます。ただしお願いが2つ。人前（私以外の!）で見せないこと。それから、私が作ったわけだから、できれば、その、洗うのもね、私にやらせてくださいまし。ご検討くださいまし。（ブラザー・コンパルαⅡ）1 覚えてる。280種ものぬい方や最大20まで組合わせできる文字・模様ぬい。別売のカプセル（どうぶつ）（のりものと風景）。などを記憶するかしこいミシンです。2 描ける。オリジナル模様を5つまでメモリーして、糸で絵が描けます。3 しゃべる。ブラザーだけの"トーキング・ミシン"。操作を8種類の声でアドバイス。初心者でも誤操作を未然に防ぐ親切なミシンです。



で。

コンパルαⅡ（アルファ）

ZZ3-B861　現金価格 238,000円

ブラザー工業株式会社
名古屋市瑞穂区堀田通9-35 〒467
TEL (052)824-2511(代表)

molten®



瞬間、
信頼の手がかり!

独自の32面体
ノンスリップ構造で
ダイナミックプレーを演出する
モルテンハンドボール

独特のリブ形状とパネル間段差の"32面体ノンスリップ構造"で確かな手がかりを生み出すとともに、ナイロン糸巻構造をほどこし、すばらしい耐久性、真球性をも実現したモルテンハンドボールは、日本ではじめて国際ハンドボール連盟（I．H．F．）公認を獲得。ハンドボーラーの圧倒的な人気と信頼を集めています。

●日本ハンドボール協会検定球(J.H.A.)





●国際ハンドボール連盟公認球(I.H.F.)

モルテン
ハンドボール

株式会社 モルテン
東京本社　東京都墨田区横川5－5－7 〒130 ☎(03)625－7581
東京 大阪・広島・名古屋・福岡・札幌・ロサンゼルス・デュッセルドルフ

賛助会だより

61年1月からは新年度です
賛助会の輪をもっと広げましょう！
—ハンドボールの強化と普及を皆さんの手で—

ハンドボールをＴＶで

「ハンドボール！」。この素晴しいスポーツを皆さんのお友達も見たり体験されているでしょうか？

新聞紙上などで試合の結果が報道されておりますが、テレビで試合が放映されることはほとんどありません。より多くの人に、より深くハンドボールを知ってもらいたい、それが皆さんの心からの切望ではありませんか。

テレビで放映してもらうのは生やさしいことではありません。まず魅力ある試合であること、またその結果でもあると思いますが、多くの観客が集まることです。

来年はソウルでのアジア大会、1988年にはソウル・オリンピックと、目前に大きなイベントが迫っております。日本協会でも国際試合など魅力あるイベントを企画しておりますが、皆さんに、これを支えるハンドボールファンを一人でも多く増やしていただきたいのです。

賛助会が設立されてからおかげさまで２年たらずで法人会員21社、個人会員450名余のご加入をいただきました。

賛助会費収入からは機関誌増刷及び送料を差引いた残りは、強化、普及事業に大きな力となっております。

ハンドボールの観客を増やすためにも、新会員の紹介を是非ともお願いします。

小学生にハンドボールを

日本協会のもう一つの課題は、小学生に対するハンドボールの普及です。全国の各ブロック毎にようやくチビッ子ハンドボールが盛んになって来ました。親子ハンドボールのほほえましい姿が全国津々浦々に……。

この夢を皆さんとともに一日も早く実現したいものです。

どうか賛助会の皆さん、お一人お一人が一人でも多くの知人を誘っていただき、その新会員からまたご紹介をいただくことにより賛助会の輪を広げてまいりたいと思います。

１月からの新年度を迎えるにあたり魅力ある会員の特典を具体化すべく検討を重ねております。

何卒皆さんの心からのご協力をお待ちしております。

会員証の切り替えは１月からです

現会員の皆さんには、ご継続のための書状をお送りいたしますのでよろしくお願いいたします。

スポーツが好き。汗が好き。

笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。

新日本製鐵



（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二四九号
昭和四十年六月」
第三種郵便物認可
昭和六十一年二月二十五日 印刷
昭和六十一年三月 一 日 発行
東京都渋谷〒一―一―一
電話 代表（[illegible]）二三六一
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）